

# 児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

指定校番号	28007	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立 可部小学校	校長	阪田 福三	生徒指導主事	中山 孝
-----	------------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『キーワード リーダーの育成』**

**取組のねらい『キーワード 自主的実践的態度』**

○ みんながよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに高学年児童にリーダーとしての役割を自覚させる。

**取組の具体的内容『キーワード 率先垂範』**

○ 高学年を中心に、リーダーとして活躍し自覚を促す機会を多く設けることで、手本となる「かべっ子」の率先垂範が機能することを期待している。



平和集会



かんべ村訪問



6年生を送る会



① 各委員会の取組

- ・ わかたけ委員会……………運動会テーマ、平和集会、かんべ村訪問、6年生を送る会
- ・ 図書委員会……………本の紹介
- ・ 放送委員会……………校内や校外での過ごし方の呼びかけ
- ・ 園芸ビオトープ委員会…学校園・ビオトープの世話、校内美化
- ・ 飼育委員会……………動物の紹介（ふれあいパーク）
- ・ 運動委員会……………運動や遊びの奨励
- ・ 給食委員会……………食事マナーの紹介、食器返還の手伝い
- ・ ベルマーク委員会……………ベルマーク集めの呼びかけ・回収・集計
- ・ 生活委員会……………あいさつ運動、黙って掃除、牛乳パックリサイクル回収
- ・ 保健委員会……………健康面の関心を高める呼びかけ、検診の準備手伝い
- ・ 広報委員会……………ユニセフなどの募金活動



黙って掃除



牛乳パックリサイクル



登校班



あいさつ運動

② 登校班……………各地区ごとに班長がリーダーとなり一緒に登校する。

③ あいさつ運動……………高学年が中心に、校門で自主的にあいさつをする。

## 取組の課題・創意工夫 『キーワード 主体的・自発的場の設定』

- リーダーを中心に他の児童の活動も主体的・自発的になるように、自ら工夫して活動していける場をできるだけ設けている。



わくわくタイム



おはようタイム



学習発表会



徒歩遠足

- ① きょうだいグループ……1・6年、2・4年、3・5年が縦割りグループを作る。  
「わくわくタイム」「徒歩遠足」「スポーツテスト」  
「掃除・給食の補助（6年）」「合同音楽・九九ボランティア（4年）」
- ② 業前活動……さわやかタイム、おはようタイム、保健指導
- ③ 地域発信……運動会、学習発表会
- ④ 生活規律……語先後礼、犯罪防止教室、いじめをなくす行動宣言

## 取組の成果（効果）『キーワード かべっ子』

- 高学年になれば自然と主体的になるというものではない。リーダーとしての活動を仕組むことが自覚を促し、やがて個人の主体性を生み出すものと考えられる。主体的な動きが、他の児童に波及効果をもたらし、リーダーの役割がない者にも主体性をもたらす。それは、同学年の中であっても異学年であっても起こる良い変化であると実感している。毎年、6年生児童を中心に「かべっ子」（モデル）を示し、新たな「かべっ子」を生み出すことで大きな効果を実感している。

## 今後の展開『キーワード 伝統の継承と発展』

- 先述の通り、即効性のあるものではなく、毎年根気強く地道に続けていくことで小さな変化を待ち望むものである。従って、ベースの部分は何年も変えることなく良き伝統として残されてきたものである。それを毎年、発展させ、よりよい可部小学校をつくっていくという心構えを6年生児童を中心に育てることができるよう指導を続けていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 特色』

- 本校の特色をベースに置いた「育てる児童の姿」を保護者・地域で共有し、9年間で育てていくという意識を持つ。

指定校番号	28010	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島小学校	校長	尼子 博崇	生徒指導主事	西本 由美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『吉島秋の友だちさんかまつり』**

**取組のねらい『キーワード 関わり合う』**

- ・ 吉島小学校と広島南特別支援学校の児童，また，地域の人たちとふれあい仲良くなることで，相手を思いやる心を育てる。
- ・ お店の計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- ・ 集会にみんなで参加し，楽しさを分かち合う。

**取組の具体的内容『キーワード 満たされる』**

・ 児童会が主となり計画・運営をしていく広島南特別支援学校との交流行事。開会式では，両校の1年生が手話で「さんぽ」を歌ったり2年生が「おみこし」で会場を練り歩いたりして会場を盛り上げる。その後，「まつりの広場」では3年から6年の児童が自分の学級でお店を開く。自分たちがアイデアを出し合い，お店を完成させていく中で友だちと触れ合い，自己共有感や達成感を味わっていく。また，自分が開いたお店に参加してくれた人たちが喜び，楽しむ姿を見て自己肯定感を味わったり相手の立場を考える思いやりが育ったりする。当日までの活動を通して自分が必要とされていることを実感し，心が満たされる。



### 取組の課題・創意工夫 『キーワード 時間』

・まつりの時期には修学旅行や、野外活動等が重なるため、十分な時間をとって準備をすることができない。また、児童会運営委員が抱える仕事もたくさんあり、限られた時間の中で準備等を行っていくので例年通りの内容で提案しがちである。各学級においても児童がゆっくりアイデアを出し、失敗をくり返しながら練り上げる時間が十分とれないことから、学級によっては教師主導で行いがちになることがある。

### 取組の成果（効果） 『キーワード 主体性』

・6年生に「ともだちさんかまつりについてのアンケート」を行ったところ下記のような結果となった。

1. ともだちさんかまつりの準備やまつりは楽しかったですか。

とても楽しかった・・・53%      まあ楽しかった・・・44%      あまり楽しくなかった・・・3%

(理由：本番何をやったらいいのか話し合い  
ができていなくて不安だったから)

2. 楽しかった理由は何ですか。

友だちとアイデアを出し合いながら作り上げていったから・・・53%

みんなに楽しんでもらえたから・・・・・・・・・・・・・・・・・・22%

自分たちがやりたいことができたから・・・・・・・・・・・・・・・・17%

自分もたくさん活躍できたから・・・・・・・・・・・・・・・・・・3%

その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5%

児童が主体的にお店の運営にあたり、試行錯誤しながら活動していく過程で、生き生きとした児童の姿が多く見られた。アンケート結果からも児童が主体的に活動できたことへの喜びが感じとられる。また、自分一人が楽しむのではなく、相手を意識した回答が多くあったことは取組のねらいが達成できている現れであると感じる。

### 今後の展開 『キーワード 広がり』

・まつりを通して身についた力が他教科や普段の生活の場面に広がっていくことが期待される。特別活動にとどまらず、普段の授業の中でも児童が思考を組み立てられるよう教師が意識をして授業を構成していきたい。

### 他校へのアドバイス 『キーワード 信じて任せる』

・児童の力を信じて任せてみるのが1番であると考えて。「できないであろう。」と最初から決めつけ教師主導で進めていくと児童は考えることをやめ、指示通りに動くだけになってしまう。失敗することも想定し、それを改正していくことができる時間を十分与えられるよう計画性を持って児童を信じ、任せてみるのが大切である。

指定校番号	28013	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立舟入小学校	校長	大久保幸則	生徒指導主事	北浦昌義
-----	-----------	----	-------	--------	------

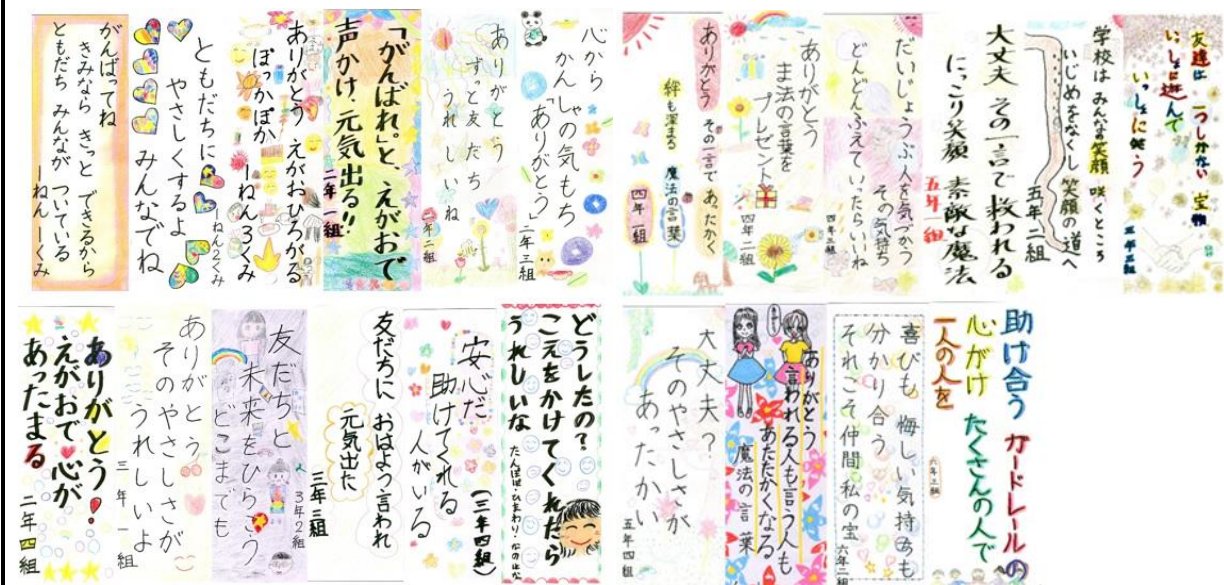
**取組事例名 『あったか言葉の輪を広げよう』**

**取組のねらい 『児童主体で笑顔の学校に』**

・けんかやいじめをなくし、舟入小学校の全児童が笑顔で楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

**取組の具体的内容 『あったか言葉・標語発表会』**

- 企画運営委員が、代表委員会で「あったか言葉・標語発表会」の取組の提案をする。
- 提案を受けて、各学級で友達から言われてうれくなる言葉を話し合い、「5・7・5」（「5・7・5・7・7」）の標語を決める。
- 色やイラストを加えて、標語をカードに記入する。
- 各学級の代表1名が、各学級の標語を「全校朝会」で発表する。  
(発表時、プロジェクターで標語を映し出す。)
- 各学級で「あったか言葉・標語」を利用して、児童の主体的な仲間作りを進める。
- 学級の標語カードは、発表後運動会まで体育館前に掲示する。運動会後は各学級に掲示する。
- 生徒指導便り・学校ホームページを通じて、地域・保護者にも発信する。



### 取組の課題・創意工夫 『学級での取り組み』

- ・学校朝会での発表後の学年・学級での取組が重要になってくる。
- ・「あったか言葉・標語」を学級の毎月の取組に取り入れ、児童に主体的に取り組ませることで、自分たちで学級を動かしているという意識をもたせることができる。
- ・いじめ防止宣言を活用していくことも今後の課題である。

### 取組の成果（効果） 『分かりやすさ』

- ・本取組の発表会は9月に行った。全校児童アンケートの集計結果では、「相手の気持ちを考えた言葉使用をすることができる」は、7月に84%だったのに対し12月には88%となり、4ポイント増加した。
- ・スローガンのようにみんなが言いやすい標語がたくさん発表され、今後の実践に生かしやすい。
- ・発表で終わらず、学級で活用していきたいという思いをもたせることができる。
- ・学級の中であったか言葉について意識する児童が増えてくると考えられる。
- ・学年に応じた標語の発表を行うことができる。

### 今後の展開 『PDCAサイクルを学級活動・児童会活動に取り入れて』

- ・今後は、PDCAサイクルを意識して取り組ませていきたい。特に重要な部分はCheckとActionの部分である。児童が自らチェックし見直しをかけて、次の改善策を考えていかなければならない。その繰り返しによって、主体的な児童会活動、特別活動を行うことができると考える。
- ・折にふれて「今のは、あったか言葉だね」とプラスの声かけをしていくことも重要である。

### 他校へのアドバイス 『学級の児童にあった手立てを』

- ・発表後の学級での取り組みについては、はじめの段階はまず児童から出てくるあったか言葉の「量」に意識を向けるとよいが、児童の育ちが感じられるようになれば、あったか言葉の「質」に焦点を向けると、取組が形式的なものにならないと思う。

指定校番号	28014	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木小学校	校長	重田 小百合	生徒指導主事	松島 秀平
-----	-----------	----	--------	--------	-------

**取組事例名 『自分たちの力によって進める活動』**

**取組のねらい『望ましい集団づくり』**

- よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、予防的生徒指導の推進を図る。

**取組の具体的内容『自主的な委員会活動』**

- 執行委員会の取組  
「あいさつ運動」「あいさつ標語の募集」「いじめ防止標語の募集」「キッズワールド（異学年交流）」
- 運動委員会の取組「長縄大会」
- 生活委員会「あいさつマイスター」「もくもくそうじ」
- 放送委員会「もくもくそうじの呼びかけ」
- 飼育委員会「動物愛護標語」
- 図書委員会「読書感想文の紹介」

「あいさつ運動」



「長縄大会」



「キッズワールド」



**取組の課題・創意工夫『自らの力で運営』**

- 児童の活動が主体的、自発的になるように、児童自らが工夫して、自分たちで運営していく活動内容を設定した。特に、「あいさつマイスター」「もくもくそうじ」「キッズワールド（異学年交流）」については、児童の主体的な考えや取組内容を重視した活動になった。
- また、「キッズワールド（異学年交流）」は、自分だけではなく、ペア学年にも楽しんでもらうように取り組んだり、自分たちのクラスの出し物が楽しめるようなものになるようによく考えたりしていた。「長縄大会」では、よりよい学級や人間関係を築こうとする仲間づくりが出来ていた。

**取組の成果（効果）『自発的な活動と成就感』**

- 今年度も児童自らが活動内容を考え、代表委員会に提案して、各活動に取り組んできた。その中でも、特に、「あいさつ運動」や「あいさつマイスター」の取組については、自主的な活動を行うことによって、自分たちで成功させたという成就感を味わわせることができた。
- また、今年で5回目になる「長縄大会」では、毎日練習することにより、各学級で望ましい集団づくりができ、成績も大きく向上したことで達成感も得た。



### 今後の展開『集団としての連帯感』

「キッズワールド（異学年交流）」は、各クラスや学年の枠を超えた取組である。他の活動もよりよい学校にするための活動であり、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるとともに、連帯感を養っていく必要があると思われる。

### 他校へのアドバイス『児童の力を生かす委員会活動』

「長縄大会」「あいさつマイスター」の取組は、児童の自主的な取組として、どの学校でも取り組みやすい活動である。

指定校番号	28018	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校長	中島康弘	生徒指導主事	原田宏子
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『いじめ防止強化月間（9月～2月）—児童会が中心となった取組—』**

**取組のねらい『キーワード：児童主体のいじめ未然防止の活動』**

『やさしい言葉でいっぱい』の八木小作戦パート2』  
 学校を「ふわふわ言葉」や「ふわふわ名人」でいっぱいにして、いじめのない優しい素敵な学校にする。

**取組の具体的内容『キーワード：取組の継続：3年次 ・ 9月～2月』**

執行委員会による取組の提案→代表委員会で決定

1 取組のねらいについて説明：執行委員会→代表委員会→各クラス（9月下旬）

これまでの児童会の取組を伝える。

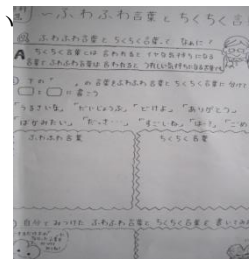
- ① 1年次：「いじめを防ぐ三つの勇氣」
- ② 2年次：「やさしい言葉いっぱいの八木小学校」
- ③ 3年次：「やさしい言葉でいっぱいの八木小作戦パート2」・・・今年度

※取組のねらい：八木小学校の課題「人を傷つける言葉の多さ」は、自分たちが考えた課題であることを伝え、継続して取り組むことでさらにいじめのない優しいいくというねらいを説明する。

2 「ふわふわ言葉」について考える。（10月）：各クラス

資料①を使い各クラスで「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について考える。

※自分たちのクラスの課題を見つける。



3 ポスター作り（10月）：各クラス

自分たちのクラスで増やしたい「ふわふわ言葉」と「ふわふわキャラクター」を入れたポスターを作る。

※校内テレビ放送で各クラスの取組を紹介



4 「ふわふわがんばりカード」の取組（11月—1週間）：各クラス

※レベル①「ちくちく言葉」を言わない→できたら黄色

レベル②「ふわふわ言葉」を言った→できたら赤

レベル③だれにでもやさしくできた→できたらピンク



5 「ふわふわ名人」決め（12月）：各クラス

ふわふわ言葉を率先して使っている人を「ふわふわ名人」として認める。

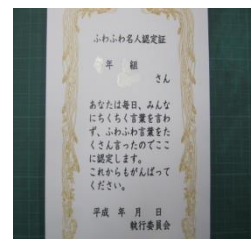
※名人に認定証を渡す。：クラスの人数の1/3

6 「八木っ子祭り」での取組（1月）：全児童

各クラスでミッションを考え、協力して運営する。

異学年交流を行うことで、お互いを認め合う。

※異学年で言葉を大切にしたい関わり持つ。



7 児童朝会で取組の発表（2月）

取組の振り返りを行い学級代表が、全校の前で発表する。

※来年度の取組につなげる。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：広げる・つなげる』

### ・異学年間交流での取組

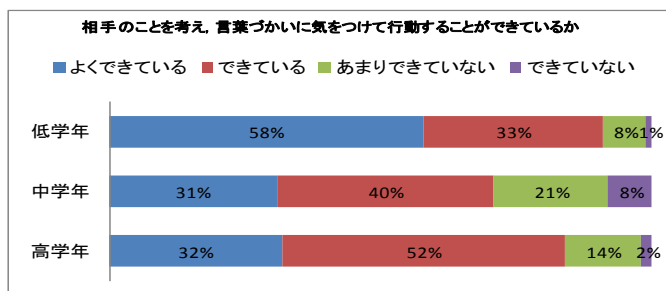
前半は、クラスを中心にした取組を行った。クラスの中での課題を見つけ、それを解決するため、増やしたい「ふわふわ言葉」を具体的に決めて取り組んだ。児童の相互評価もクラスの中で行った。後半は、クラスでの取組を広めるため、全児童参加（異学年間交流）の「八木っ子まつり」の活動で「ふわふわ言葉」の取組を行った。活動後、異学年間での相互評価を行った。

### ・他教科との関連：6年生の国語科「町のこうふく」

6年生児童は、自分たちの住む八木の町の未来について考える学習を行った。自ら地域の課題(地域にある落書きやポイ捨てについて)を見つけ、課題解決を行う課程が児童会で進めている取組と同じだったため、6年生だけの学習に止めず、全校児童に向けてプレゼンテーションを行った。

## 取組の成果（効果）『キーワード：リーダーの成長・具体的な取組』

- ・リーダーの成長：昨年度執行部を経験している児童が中心になり、活動を引っ張ることができた。見通しを持って活動をすることができ、取組に色々な工夫が見られた。説明する資料を作成したり、工夫して「がんばりカード」を作成したりした。
- ・昨年度は、クラスでの取組に温度差があったが、取組の内容をより具体的にすることでその差が解消された。昨年度までは、評価項目を「相手の気持ちを考えて行動することができるか」にしていたが、今年度は、「相手のことを考え、言葉づかいに気を付けて行動することができるか」に変更し、評価の基準を具体的にした。このことで、自分たちの言動をより深く、振り返ることができたように思う。今年度の評価は児童にしっかり返し、来年度の取組につなげていきたい。



- ・児童の意識の変化だけでなく、教職員の情報共有に関わる意識の高まりが見られた。児童の発した言葉から問題行動を予想し、対応の必要性をキャッチすることで、すぐに協議しそれを全教職員が共有することができた。学校の中に、問題行動を未然に防ぐ取組が増えてきた。

## 今後の展開『キーワード：中学校区での取組の共有』

- ・中学校区で取組を情報交換することで、自校のみの取組に終わらず共通した取組ができたらいと思う。9年間を見通した取組に変えて行くことで、児童・生徒の自主・自立の力が育ちより確かなものになると考える。

## 他校へのアドバイス『キーワード：継続と長期的な取組』

- ・取組の3年次であるが、継続させたことで取組がより深まったように思う。先輩の取組を後輩が受け継ぐことで、見通しを持つことができたり、より良い手立てを考えたりすることができた。学校や地域での課題を児童自ら気付く、その課題を解決していこうとする課程は時間の確保が必要である。いじめ防止月間を9月に設けているが、長期の取組（9月から2月）にすることで、児童のいろいろなアイデアを引き出すことができたり、他の活動と結びつけて取り組むことができたりした。

指定校番号	28029	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立尾長小学校	校長	福馬 亮	生徒指導主事	西村 則生
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『児童会あいさつ運動』**

**取組のねらい 『なかまおもいの尾長小学校』**

全校で「あいさつ運動」に取り組むことを通して、自分とまわりの人とのつながりを深めていく。

**取組の具体的内容 『あいさつ良いところ見つけ』**

- 児童会が主体となり、前期後期に各 1 回ずつ「あいさつ週間」を設定し、あいさつ運動を行う。
    - ・ 代表委員会にて、執行委員会より「あいさつ運動」の提案を行う。
    - ・ 期間（前期、後期）、時間（登校時）及び場所（門、各校舎廊下、わたり廊下）を設定する。
    - ・ 方法の確認を行う。
- （方法）
- ① 門は執行委員及び高学年の希望者が立つ。（校長、生徒指導主事も含む）
  - ② わたり廊下は全校希望者が立つ。
  - ③ 校舎内は執行委員及び学級代表がまわる。
  - ④ 各学級代表に「あいさつ良いところ見つけカード」を配布。学級代表は日々の良かったところを記入して児童会ポストに入れる。
  - ⑤ 執行委員は、給食時間に日々の良かったところについて、カードをもとに発表する。
    - ・ 取組後、代表委員会にて反省を行う。



**取組の課題・創意工夫 『あいさつ良いところ見つけカード』**

- （課題）
- ・ 期間中は大きな声が聞かれるものの、定着には時間が必要。
- （創意工夫）
- ・ 「あいさつ良いところ見つけカード」を作成することで、あいさつに対する意識の高まりが見られた。

**取組の成果（効果） 『教師と子ども、子どもと子どものつながり』**

- ・ 「あいさつ運動」を通して、他学年や普段関わりの少ない教職員と言葉をかわす場面が意図的に設定され、教師と子ども、子どもと子どもが言葉を通してつながる良い機会となった。
- ・ 学校評価委員会におけるアンケート調査結果でも、「子どもたちはよくあいさつをしている」の項目において肯定的な回答が 86.4%と昨年度に比べ 2 ポイント近く上がっている。

### 今後の展開『更なるつながりを目指して』

今年度は年間2回の取組となったが、年間3回を目標とするとともに、取組期間以外でも主体的にあいさつができるよう教職員も積極的に児童に対して働きかけていくことにより、教師と子ども、子どもと子どもの更なるつながりを構築していく。

### 他校へのアドバイス『教職員の積極的働きかけ』

子ども同士のつながりを深めるためには、教職員がまず積極的に子どもと関わる必要がある。「あいさつ運動」においても、教職員が率先して声をかけていく姿勢が大切である。

指定校番号	28030	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	段原小学校	校長	宍戸千代香	生徒指導主事	植村和広
-----	-------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『なかよし月間の取り組み』

**取組のねらい** 『キーワード 異学年交流』

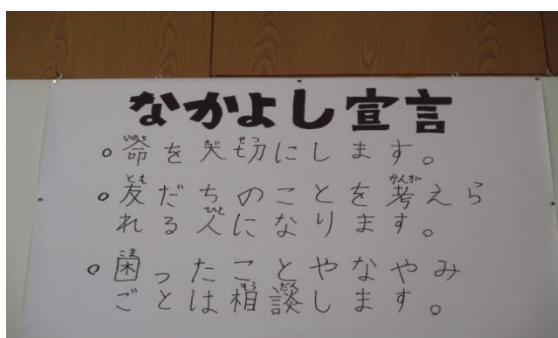
いじめのない楽しい学校づくりに向けて、児童会活動を通して児童のコミュニケーション能力を育む。

**取組の具体的内容** 『キーワード なかよし遊び』

1. 内容
  - ・児童会企画委員が「スーパー昼休憩」に誰でも参加できる遊びの会をすることを提案し、代表委員会で話し合う。
  - ・企画委員児童が司会進行を行う。
  - ・3年と5年，1年と6年，2年と4年をペア学年として、当日参加した児童で「なかよし遊び（多人数でできる遊び）」を行う。
  - ・「なかよし遊び」の内容は雨天時の場合や体力づくりの取組を考慮して、企画委員が考える。
2. 計画
  - 9月1日（木）委員会活動で代表委員会の原案作成
  - 5日（月）代表委員会で提案・決定
  - 6日（火）音楽朝会で提案の報告をして、児童全員で「なかよし宣言」を読む
  - 6日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）3年と5年
  - 13日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）1年と6年
  - 20日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）2年と4年

↓

3月



指定校番号	28030	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	--	------

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 工夫』

- 6年生は加減したり接し方を工夫したりして遊んでいたが、1年生との年齢の差が大きいため、遊びの内容を工夫する必要がある。
- 4年生は成長過程で、まだ2年生と対等に接してしまうことが多々あるのが現状である。
- 授業時間の確保・行事の精選の中での児童会活動になるので、学校行事との調整が難しいが、年間計画を立てる段階で組み込んでいく。

### 取組の成果（効果）『キーワード 意欲』

- 児童会で取り組むことで、企画・運営をする児童も参加する児童も主体的に活動することができた。
- ペア学年で運動することで、楽しく体力づくりに取り組むことができた。
- ペア学年がいることで、参加する意欲が高まった。
- 1年と6年は、年度初めから年間を通しての交流のため、誘い合って参加する姿も見られた。
- 普段は遊ぶ機会が少ない低学年と遊ぶことで、高学年としての自覚を持ち、低学年を意識した声かけや接し方を身につけることができた。
- 児童アンケートの「いろいろな学年の人と仲良く過ごすことができた」は、「そう思う」の肯定的な評価が85.4%であった。

### 今後の展開『キーワード 継続』

- 9月の「なかよし月間」の取組からその後の「スーパー昼休憩」の取組へと継続していく方法を更に工夫していく必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード 目的意識』

- 高学年と運動することで、低学年は技術的に優れた上級生を目標にするようになる。
- 高学年に世話してもらうことで、低学年は自分たちもそうなりたいという憧れを持つことができる。
- 楽しく遊ぶだけでなく、異学年交流の目的意識を持たせるためには、各学級担任が声をかけたり、一緒に参加したりすることが必要である。
- 遊びの内容や場所等の配慮や工夫が必要である。(特に、暑い時期の熱中症対策)

指定校番号	28034	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立川内小学校	校長	山田 明美	生徒指導主事	畑山 高義
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『川内っ子祭り』**

**取組のねらい『キーワード 相手の立場や気持ちを考えた行動』**

- 他学年との交流を通して、互いを知り、相手の立場や気持ちを考えた行動がとれるようにする。
- 計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- クラスで協力して出し物を工夫することを通してクラスの団結を図り、祭りを楽しむことができるようにする。

**取組の具体的内容『キーワード なかよく 協力 』**

◎児童会が主となり運営計画を立て、全校で取り組む。

※ 地域にある連携教育を行っている4園の幼稚園、保育園も招待し、交流を行う。

○3年生以上の各学級で話し合っ、学級ごとのアトラクションをつくる。

○1学級1アトラクションで準備する。

- 3-1 「つって考え つりぼりゲーム」 3-2 「糸をよける」 3-3 「ミッションお宝めいろ」
- 3-4 「サンタのプレゼント集め」 3-5 「何があるのかな」 3-6 「海のわなげや」
- 4-1 「ブラックボックス」 4-2 「スーパーめいろブラザーズ」 4-3 「スターショット43」
- 4-4 「ジュニアカープ2016」 4-5 「風船ポンポンきょうそう」
- 5-1 「注文の多い迷路店」 5-2 「ストライクショットボーリング」
- 5-3 「おにたいじ大作戦」 5-4 「真暗めいろ」 5-5 「BKMA」
- 6-1 「KKSP」 6-2 「you rite aba me ～あなたの人生ゲーム～」
- 6-3 「We come to フルバヤシ」 6-4 「パリピ村」

ほほえみ「じゃんけん屋」

○時間を前半と後半に分かれる。

○出店するのは3学年以上。参加は全学年。

○児童は地図つきスタンプパスポートを持って移動する。



他学年に自分たちの考えたゲームを説明し、楽しませることによって共感的人間関係を育てる。楽しんでもらえるよう分かりやすく説明するなど相手意識をもって取り組む。

なにがはいつているのかなあ～？

園児に説明をして一緒に活動することで、自己肯定感を高めていく。小学生の子供と違って、もっと小さな子に対する声のかけ方や説明の仕方などを自分なりに工夫する。





### ～創意工夫～

様々な工夫を通して、来てくれた人が楽しんでくれたり、喜んでくれたりすることで自己肯定感を高めたり相手の立場を考える思いやりの心を育てたりする。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 有効活用 時間』

- 身の回りにあるものを有効活用して準備をする。また、自分たちの出し物をアピールするためにポスターをかく。
- 同じ場所にならないように、スタート場所を指定した。
- スタンプパスポートを持ち歩き、自分が、どこを回ったかを分かるようにする。  
(行きたいところに計画的に回れるよう配慮)
- 限られた時間の中で、たくさん回れるように、短時間に班の全員が協力して楽しめる内容のゲームを考える。
- 今後、1・2学年の児童も、より達成感を味わうことができるような活動を工夫したい。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自己決定の場と団結』

- 自分たちが、話し合いから、出し物を決定し出し物を運営することで、学級の団結を強めることができた。
- 他学年と交流することで、他学年の様子を理解しすることができ、今後の行事に生かせる。
- いろいろな人と繋がる喜びを味わう体験活動となっている。友達と分かり合える楽しさが実感できる体験活動と相互交流を行うことで、コミュニケーション能力を育むことができる。

## 今後の展開『キーワード 異年齢交流での自尊感情を育む』

- 他の学年（保・幼含む）との異学年交流をすることの意義を明確にし、次年度へ継承する。
- 異年齢交流する中で、高学年は、リーダーシップを発揮しながら、自分への気付きが増え、自分の良いところを伸ばすことができる。また、他学年の児童もそれぞれに活躍の場があり、自分なりに達成感をもった取組ができるよう、役割の明確化も計画に盛り込みたい。
- 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人に役立っていることや周りの人への存在の大きさに気付くようになる。今後も高学年や児童会を中心とした活動を行うことで、異年齢の枠を超えた学校全体のコミュニケーションの場をつくっていききたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード かかわる』

- コミュニケーション不足が原因でトラブルになることが多い今の子供たちに、「かかわる」機会をたくさん取り入れ、かかわり方のスキルを高めていくことが大切である。そのためにはどんな活動が必要かを児童自ら考え計画、実践できるよう、育てたい児童の姿を明確にもった支援が必要である。
- 年間行事の中にかかわる活動を位置付け計画的、継続的な活動となるようにする。

指定校番号	28036	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立伴小学校	校長	太田 治	生徒指導主事	越智 武志
-----	----------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『児童会活動のいじめ撲滅運動「SOS BOX」』**

**取組のねらい『キーワード「予防的な生徒指導」』**

- 子ども主体の予防的な生徒指導を行うこと。
  - ・一人で抱え込ませない。
  - ・子ども同士が、主体的に、いじめで悩んでいる子どもの声に耳を傾け、支援する。その悩みを訴える場を必要としている子どものために「SOS BOX」を設置する。
  - ・児童会活動を通じて「あいさつ運動」や「自問清掃」、いじめ防止策を行ったり、全校朝会で学校のきまりについて指導を行ったりして、定期的な指導・アンケートによる実態把握に努める。
  - ・自分自身がしている「いじめの根」につながる言葉や行動に気付く。
  - ・いじめをなくしていく努力・勇気・正義感のある「伴っ子」になっていく。

**取組の具体的内容『キーワード「いじめは決して許さない！」』**

- 「いじめは決して許さない！」という姿勢を計画運営委員会が中心となって推進する。
  - ・計画運営委員会（児童会）でいじめ追放のポスター制作・掲示
  - ・SOS BOXの設置紹介（全校放送）
  - ・計画運営委員会による、いじめに気付いた子どもや被害相談を訴えてきた子どもからの聞き取り。担任への連絡。解決から一週間後の再度の聞き取り。
  - ・全校による「伴小ほんわか言葉」作り・発表・「ほんわか言葉」の掲示
  - ・全校児童いじめのチェックリスト実施（11月14日～18日）
  - ・クラス毎に、学級代表と担任とで、いじめのチェックリスト集計、学級での話し合い、計画運営委員会への提出を行い、全集計をまとめる。
  - ・校内テレビ放送による「いじめ追放キャンペーン」

**取組の課題・創意工夫『キーワード「主体的に考え、行動できる伴っ子」』**

- いじめについて、子ども自らが主体的に考え、行動できる伴っ子につなげていくことができたか。
  - ・教室内を始め、周囲の様子に関心の目を向けることができていない子どもがいた。
  - ・学級内での指導の温度差が生じていた部分があった。
  - ・いじめをなくしていく努力と勇気、正義感のある伴っ子になっているかどうかの結果は、計りにくい。校内の様子を見る以外、計ることができていない。
  - ・いじめ0（ゼロ）になったとは、言い切れない。

**取組の成果（効果）『キーワード「伴小スタイルの構築」』**

- 伴小スタイルの構築につながったこと。
  - ・「いじめは決して許さない！」という姿勢を計画運営委員会が中心となって推進することができた。
  - ・一人一人が、いじめにつながる言葉や行動（「いじめの根」）に気付くことができた。
  - ・本気の姿勢（職員も計画運営委員会も）で取り組むことができた。
  - ・「SOS BOX」の取組が、子どもたちの中に浸透し、身近な相談方法の一つとして利用価値が高まった。

## 今後の展開『キーワード「Happy Box」』

- いじめのない楽しい学校生活を送ることができるように、良い行動や優しくしてもらったことなどを募って紹介する「Happy Box」の取組を一層盛り上げる。良い話を紹介して、全校で褒める活動。
  - ・全校放送を活用して全校から募った明るい話題や情報を紹介する。
- 問題行動が起こった時には、課題のある子どもの担任や学年と情報を共有して、適宜、全職員に現状報告を行い、全職員が一体となって解決に向けた支援を行う。
  - ・職員は、子どもたちへの声かけを大切にされた関係作りに努め、日頃から子どもの様子や言動、表情をしっかりと観察すること。ちょっとした異変にも気付き、声かけができる校内の雰囲気作り。
  - ・小さな問題行動も見逃さない「勘」と「目」を養い、素速く動くことができる職員集団になるために、これからも適切な予防策を講じていく。また、ケースバイケースで柔軟に対応できる職員集団を築いていく。

## 他校へのアドバイス『キーワード「よき判断 よき行動」』

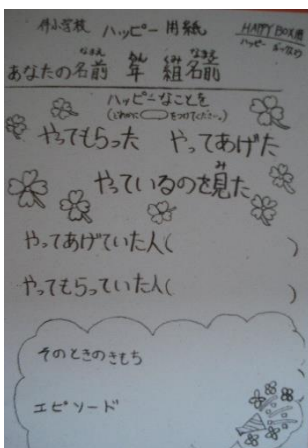
- 伴中学校区9年間の生活目標の実践
  - ・伴中、伴小、伴東小の3校が生徒指導上の情報共有や3校合同で取り組み可能な計画を実施し、それぞれの状況を検証する。今年度は、「携帯電話・スマホ・ゲーム機などの夜9時までの使用制限キャンペーン」を中学校の試験期間や長期休業期間に合わせて実施した。家庭の協力なしに、生徒指導の向上はあり得ないということを感じた。
  - ・中学校区で一貫した9年間の生活目標「よき判断 よき行動」を設定し、児童・生徒の成長を見守りながら、どの学校も成長過程に沿った指導方法で規範意識を高めていく。



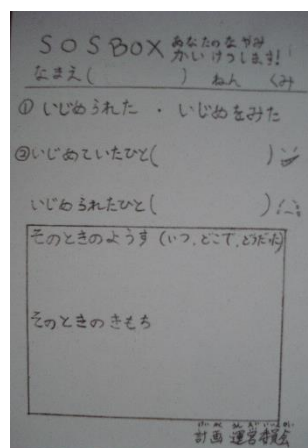
一年生を迎える会



計画運営委員会が実施したクイズ



Happy Box 用紙



SOS BOX 用紙



Happy Box と SOS BOX

指定校番号	28037	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中野東小学校	校長	坊田 裕紀子	生徒指導主事	長妻 貴志
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名 『いじめ防止の取組』**

**取組のねらい『キーワード 主体的』**

「いじめ防止取組強化月間」を設定し児童会による主体的な取組を行うことによっていじめを防止することの重要性を考えさせ、安心して生活できる学校をつくろうとする態度を育成する。

**取組の具体的内容『キーワード 振り返り』**

- 各学級でキラキラ言葉やイガイガ言葉の指導を行い、どのようなキラキラ言葉を使ったらよいか考え、学級活動で児童から出た言葉を、廊下に模造紙1枚で掲示する。
- 代表委員会で児童会役員による「いじめ防止取組月間」の取組を説明し、呼びかける。
- 定期的に振り返りカードで個人評価を行う。
  - ・ いじめ防止月間（9月）
  - ・ 中野東パーク（11月）
  - ・ 児童アンケート（2月）

**取組の課題・創意工夫『キーワード 各学級の工夫』**



〈創意工夫〉 声をかけられると嬉しくなる言葉（キラキラ言葉）を各学級で出し合い、掲示物を工夫

して作成し、各学級の廊下に掲示した。さらに、学校通信や学年通信にも掲載し、地域や保護者へ、取組内容の周知徹底を図った。

〈課題〉 キラキラ言葉を意識して使う児童は、全校行事では増えてきているが、普段の学校生活の中で考えると、友達を傷つける言葉を使う場面がある。日々の生活でも意識して使うような取組を考える必要がある。

#### **取組の成果（効果）『キーワード 啓発活動』**

9月を「いじめ防止取組強化月間」と位置付けており、各学級から出たキラキラ言葉を廊下に掲示する取組を計画した。児童会による、いじめ防止の啓発活動も並行して行っており、キラキラ言葉の波及に努めた。9月のアンケートでは、「1週間で4日以上キラキラ言葉を意識して使った」児童が77%、11月のアンケートでは、「中野東パークを通してキラキラ言葉を意識して使った」児童が89%であった。キラキラ言葉を意識して使う児童が増えている傾向にあると考えることができる。

#### **今後の展開『キーワード 継続』**

今後もキラキラ言葉を意識して使うよう、児童会を中心に啓発活動を継続していく。2月の「児童アンケート」の取組後には、最後のアンケートを実施し、活動の検証、改善をしていきたい。

#### **他校へのアドバイス『キーワード 児童の実態』**

自校児童の実態を把握し、その実態に合わせての取組を考えていくことが大切だと思います。

指定校番号	28041	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長	北村 由美子	生徒指導主事	平野 知子
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名 『児童会活動の活性化』**

**取組のねらい『自己実現とリーダーの育成』**

- 児童会活動を通して、自主的、実践的な態度を育成する。
- よりよい学校にしていくために、自分の公約実現に向けた取組を支援することを通して、自己実現の喜びを感じさせ、リーダーの育成を図る。
- 子どもたちの力でより良い学校にしていくための活動をしていく風土を作る。

**取組の具体的内容『児童によるより良い学校作り』**

- 児童会役員選挙
  - ・立候補者は、より良い学校にするために自分の公約を掲げて演説を行う。
  - ・全校児童による選挙によって役員が選出される。
- 公約達成のための取組
  - ①進んであいさつ・そうじができる学校
    - ・あいさつ標語を募集し、校内放送で優秀作品を発表した。
    - ・6年生がたてわり班そうじのリーダーとしてそうじを指導し、「そうじマイスター」を推薦した。
    - ・学校としての「あいさつマイスター・そうじマイスター」の取組と連携して取組をすすめた。
  - ②仲の良い竹西っ子
    - ・全校レクでしたい遊びについて、全校にアンケートを行い、計画を立てた。
    - ・全校朝会で内容等を周知し、大休憩におにごっこを行った。
    - ・児童会役員でふり返りをして成果と課題をまとめた。
    - ・第1回目の反省点をふまえて第2回目を計画し、行った。



### 取組の課題・創意工夫『責任感と達成感』

#### ○達成感

- ・公約が達成できるための機会や場を意図的に設定する。
- ・達成感を感じることができるように、計画・準備・練習などの支援を行う。
- ・取組や活動についての振り返りも行い、次に活かしていくようにする。

#### ○校風作り

- ・公約は選挙の時に宣言するだけのものではなく、達成のための取組をすることが大切であるという雰囲気を作る。
- ・今年度だけの活動ではなく、来年度以降もつなげていくための取組を進めていく。

### 取組の成果（効果）『次の取組への意欲』

#### ○あいさつについての児童の肯定的評価が高まった。

H27年 91% H28年 96%

#### ○そうじマイスターが増え、「黙々そうじ」についての児童の肯定的評価が上がった。

H27年 89% H28年 96%

#### ○全校レクでは、全児童で楽しむことができ、次のレクも楽しみにしている。また、児童会役員は1回目の全校レクのあと、ふり返りを行い、課題を整理して第2回目を計画した。前回の反省点を活かして改善したため、2回目は1回目よりも達成感が高まった。

#### ○6年生との準備や打ち合わせを大切にすることで、活動や取組に自信を持って取り組むことができ、次の取組への意欲も向上した。その姿が、下級生の良いモデルとなっている。

### 今後の展開『つながりと発展』

#### ○今年度の児童会の取組を来年度の6年生につないでいく。

#### ○全校レクを縦割り班活動とつなげ、異年齢交流活動を充実させていく。

#### ○活動や取組における教師の支援の割合を少しずつ減らしても活動できるよう、計画的に指導していく。

### 他校へのアドバイス『事前準備の充実』

#### ○児童主体の活動や取組においては、教師が事前準備や段取りをしておく部分と、児童に任せる部分とのバランスが必要である。本番は任せる見守ることができるよう、事前の準備や練習を大切にしている。

指定校番号	28043	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立郷田小学校	校長	兒玉 伸泰	生徒指導主事	西宮 利三
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『キラキラカード』**

**取組のねらい 『笑顔があふれ安心して生活できる学校』**

・友達の良さを見つけ、お互いを認め合い、安心して学び合う人間関係を築き、自己有用感を高める。

**取組の具体的内容 『全校児童 キラキラサイクル』 『児童会 やりきる』**

- ① **児童会** 計画 ・年2回(6月～7月・1月～2月)「いじめ・体罰アンケート」とリンクさせて実施する。  
 ・キラキラカードを書いてもらい、集約する。  
 ・目標枚数を設定する。(前期600枚・後期800枚)
- ↓
- 準備 ・学年カラーのキラキラカード・教室掲示用呼びかけ文・キラキラポストなど
- ② **児童会** 全校放送で、全校児童に呼びかけた後、呼びかけ文を持って各教室を回り、直接呼びかける。
- ③ **全校児童** キラキラ(友達の良いところ・してもらってうれしかったこと・いいなと思う言葉)を見つける。
- ④ **全校児童** キラキラをカードに書いて「キラキラポスト」に入れる。
- ⑤ **児童会** 給食準備時間に毎日枚数を数え、特設の掲示板に掲示する。(放送カード専用掲示板も用意。) その日に集まったカードの中から、望ましい内容のカードを数枚選んで給食時に放送する。放送の最後に一言コメントをつける。
- ↓
- ⑥ **全校児童** 全児童は、掲示してあるキラキラカードを読む。
- ⑦ 期間中③～⑥を繰り返す。
- ⑧ **児童会** キラキラ月間終了後、全校朝会で集まった枚数を報告、自分達の感想や意見を発表する。

**取組の課題・創意工夫 『横に縦に』**

『横に縦に』  
 ・今年度は、キラキラカードが学年を越えた取組になるように、児童会が意図的に多様な視点での「良さ」が書かれたカードを校内放送で紹介したり、校内掲示を工夫したりした。

**取組の成果(効果) 『キラキラの連鎖』 『主体的に』**

『キラキラの連鎖』  
 ・キラキラカードを書くことを通して、相手から認められている意識が高まり、相手を思いやる気持ちが育った。  
 ・低学年が、高学年のことを尊敬する内容や高学年が低学年の頑張りを認める内容が増え、自己有用感を高めることができた。  
 ・互いに認め合う活動の積み重ねから、人を傷つける言葉やからかいの言葉が減少し、落ち着いて行動できる児童が増えた。

『主体的に』  
 ・児童会から始めた活動が、学年や学級に広がり、学校全体での取組に広がった。

**今後の展開 『笑顔を自信に』**

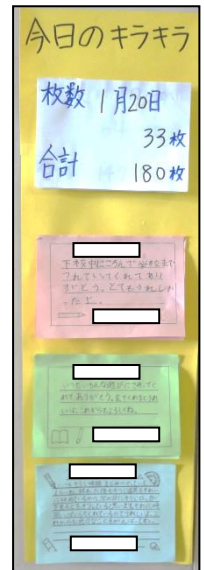
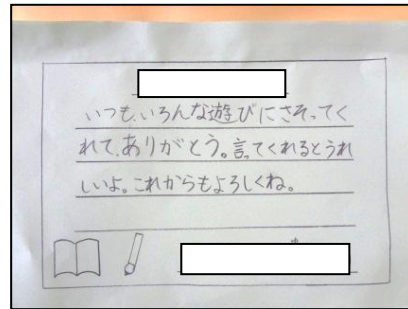
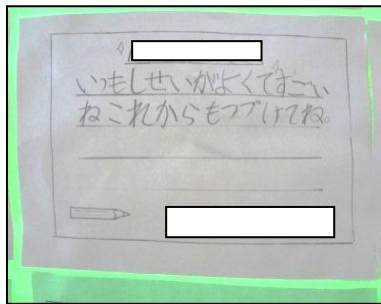
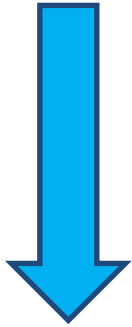
・今後も継続して「良さを見つけられる自分」、「良さを見つけてもらった自分」を自覚させ、友達とのつながりを意識した行動ができるように発展させることで、さらに自己有用感を高める。

**他校へのアドバイス 『シンプル』**

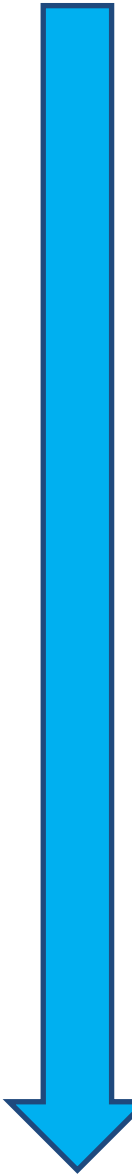
・自分のやるべきことがはっきり分かっているシンプルな活動にし、無理なく続けられる活動にする。  
 ・誰もが「喜び」や「達成感」を感じることができ、「やってよかった」と思える活動にするために評価の工夫をする。



キラキラカード  
【〇〇さんへ・〇〇より】



キラキラカードの掲示・放送



全校への報告

指定校番号	28044	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長	福場 克史	生徒指導主事	加藤 燈恵
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『スマイルボックス』**

**取組のねらい『キーワード やさしい言葉・行動を増やす』**

全校児童が、友だちの優しい言葉や行動を見つけてカードに書く活動を行うことで、優しい心で人と接することのできる児童を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 友だちのやさしい言葉・行動を探す』**

友だちからやさしい言葉をかけてもらったり、友達がやさしい行動をしたりしていたら、それをカードに書き、「スマイルボックス」に入れる。児童会がそのカードを回収し、給食放送で紹介する。紹介されたカードは、校内に掲示し、書いた相手に「郵便」という形で届ける。



**取組の課題・創意工夫『キーワード アイデアで活発に!』**

「スマイルボックス」の方法を周知するために、児童会で「児童会だより」を作成した。「児童会だより」を各学級担任に配布し、各教室で方法を確認してもらった。また、児童朝会の発表で、「スマイルボックス」の具体的な内容やルールについて説明した。「スマイルボックス」本体は、ただの箱を用いるのではなく、スマイルマークを付けたり、本物のポストのように飾り付けをしたりしてみんなの興味を引くような箱にした。児童会で回収して給食放送で紹介したり、掲示板にカードを貼ったり、書かれた相手にカードを届けに行くなどして、取組をフィードバックするようにした。

**取組の成果（効果）『キーワード いろんなやさしさを発見!』**

児童がこの取組を通して、自主的に優しい言葉を遣ったり、優しい行動をしたりしていく中で、「友だちが困っているときには声をかけると相手が助かり、嬉しい気持ちになる。」「授業中に分からないところを教えてもらえると、お互いの成長につながり、楽しい。」などに気付き、校内で優しい言葉・行動が少しずつ増えている。また、友だちにやさしい言葉がけ・行動をするだけでなく、友だちの優しい言葉がけ・行動を見つけることで、新しい優しさの発見へとつながり、効果のある取組であったことが言える。

(以下、児童の発言より)

○わたしは、困っている友だちになかなか声をかけたり、何かしたりしてあげることができていませんでした。それは、恥ずかしいからです。でも、「スマイルボックス」のおかげで、友だちのやさしさを見て、困っている友だちにどんな風に接してよいか少し分かった気がします。

○ぼくは、勉強が苦手です。算数の自分で考える場面で、書けないなあと思っていたら隣の○さんが教えてくれて、なんとか書けました。助かったし、嬉しかったです。ぼくも真似してみたいな。

## 今後の展開『キーワード ほめて伸ばし、いじめ0へ!』

優しい言葉や優しい行動は増えてきた。教師も児童もやさしい言葉・行動を意識し、見つけたらほめたり、真似したりしていくようにしたい。そして、そのことがいじめ0につながればよいと考える。

## 他校へのアドバイス『キーワード ほめて育てる場を・・・』

全校児童がやさしい言葉・行動を意識していくことは、いじめ0につながっていく。担任が優しい言葉・行動を積極的に評価したり、担任自身が意識したりして見本をしめすことが大切だと考える。また、担任が児童にやさしい言葉・行動を用いる場を設定することで、ほめる場をたくさんつくっていきける。学校組織としても、教員全体が常に児童のよいところを見つけるようにしておくことで、温かい雰囲気につながっていく。

# 〈スマイルボックスについて〉

## 1 内容

- ・嬉しかった言葉や行動を紙に書いて「スマイルボックス」に入れる。
- ・給食時間に児童会が回収。
- ・児童朝会または給食放送で一部を紹介する。
- ・紹介された手紙は校内に掲示。
- ・手紙と同じような形で書いて児童会が「ゆう便」というような形で相手に届ける。

## 2 ルール

- ①うれしかった言葉や行動を紙に書いて入れること。
- ②朝会等で紹介しても良いかを確認し、内容を紹介すること。→(紹介OK→名前、ほめたい人=チャイルド)
- ③目的外で箱にさわったり、中を見たりしないこと。
- ④そばに置いてある紙をさわったり、持っていくたりしないこと。
- ⑤いたずらで箱に入れないこと。
- ⑥紙を入れるさい、学年と組、名前を記入すること。

## 3 場所

・ことばとまきえ 教室 前のろう下に箱を一つ設置する。



ありがとう



はいじょうび?



指定校番号	28000	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野第四小学校	校長	吉田浩一	生徒指導主事	佐伯房代
-----	---------	----	------	--------	------

**取組事例名 『児童委員会のあいさつ運動へ』**

**取組のねらい『キーワード 教師主導からの脱皮』**

熊野町では、小中学校連携して6つの行動スキルの「がん熊スキル」を身に付けさせようとしている。「大きな声であいさつをしよう」はその一つである。これまでは教師主導で進めてきたが、今年度は、児童が主体的に「あいさつをする」よう取り組んだ。



**取組の具体的内容『キーワード 児童の主体性』**

・自分のあいさつの様子の振り返り、あいさつを以前よりしていないこと、声が小さくなっていることに気づかせる。【学校評価児童アンケート

「レベル5のあいさつ」前年度5月肯定的評価83.3%⇒今年度5月肯定的評価78.7%】

・一部の地域の人から「熊四小の子どものあいさつの声が小さくなっているね」と言われたことを知らせる。

・児童委員会は、振り返りや地域の人たちの言葉を受けて、朝のあいさつ運動を実施することを決め、分担を決めて、あいさつ運動を始めた。

・児童委員会の児童が朝会であいさつのモデルを示す。【「自分から・立ち止って・相手を見て」「あいさつをして」「お辞儀をする」】

・6年生の「あいさつやります！宣言」クラスが主体的にあいさつ運動を行った。



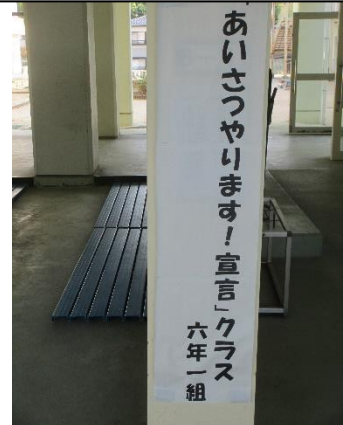
**あいさつ運動について**

児童委員会担当 齋藤 出野

- ねらい ○児童委員会主催のあいさつ運動を通して、大きな声であいさつのできる顔こずを目指す。  
(自尊)  
○熊四小文化の日、見に来てくださる保護者や地域の方々へ大きな声で感謝の気持ちを伝える。  
(他尊)
- 日時 10月13・19・26日(水) 7:40~8:00
- 場所 正門前(雨天の場合 1F 脱靴場)
- 構成 児童委員会5年生4名・各学級の代表2名ずつ26名(特別支援学級の児童は交流学級で) 合計30名
- 日程  
10月11日(火) 全校朝会で児童委員会の5年生が「あいさつ運動」について説明する。  
各学級のあいさつ運動の代表者を決定する。  
10月13日(木) 第1回あいさつ運動(各学級の代表)  
10月13日・19日・26日(水) あいさつ運動(・・・11月以降に続く。)
- 当番表

日時	メンバー	
10月13日(木)		
10月19日(水)		
10月26日(水)		

- その他  
○9月初めに児童委員会で実施したあいさつ運動で、全体的にあいさつの声が小さいことに気づいた児童たちからあいさつ運動をしようという声が出た。児童主体での「あいさつ運動」は初めての取り組みではあるので、改良を加えながら11月以降も実施していく。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード プラス評価』

・児童委員会は各学年のあいさつ名人にあいさつのコツやあいさつをした時の気持ちをインタビューし、あいさつした時の気持ちよさを給食時の放送で伝えた。

3年生のあいさつ名人に選ばれた男子からは、あいさつのコツとして「恥ずかしがらず、元気よく挨拶をする」こと、あいさつをしたとき、「心が温まるし、気持ちがよくなる」こと、あいさつをされたら、「うれしくなって知らない人でも友だちになった」との発表があった。

・「気持ちのいいあいさつができていますね。」などといった来校者の評価を児童に伝えるようにした。



## 取組の成果（効果）『キーワード よさを広める』

・各学年のあいさつ名人からの放送では、児童のあいさつに対する目的意識や相手意識を高めることができた。放送を聞いたのち、あいさつするときのコツを生かす児童が出てきた。

・帰りの会で、自分のあいさつを振り返り、自分のあいさつがよくできたことを自己評価できた。

・今年度の学校評価アンケートの「レベル5のあいさつ」に関する児童の肯定的評価は、5月78.7%⇒1月76.5%と、一定数を保っている。一方、職員の肯定的評価は、5月33.3%⇒1月66.7%と大幅に増加している。児童の意識レベルはほとんど変化していないが、職員の評価が上がっていることから、児童のあいさつの質の高まりがあったととらえることができる。

## 今後の展開『キーワード 引き継ぎ』

・児童委員会の6年生から5年生に「あいさつ運動」の引き継ぎをする。

## 他校へのアドバイス『キーワード 気づきの場づくり』

・教師が設定した「あいさつ運動」から、児童主体の「あいさつ運動」への転換を目指すために、児童に自分のあいさつの実際はどうなっているか振り返り、気づかせるための場づくりが必要である。



指定校番号	28053	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田小学校	校長	平川 博秀	生徒指導主事	松本 浩司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『児童会活動の取組』**

**取組のねらい『キーワード：自主的・実践的な態度，自治の力』**

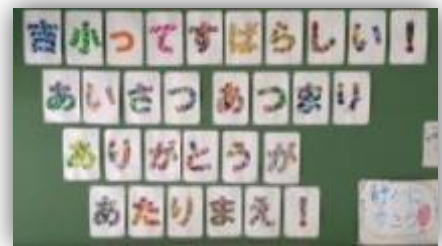
- ・ 集団の一員として，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・ 児童会活動を通して，よりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自治の力を高める。

**取組の具体的内容『キーワード：児童会学校目標，2週間チャレンジ，ボランティア活動』**

**1 児童会学校目標の設定「吉小ってすばらしい！あいさつ，あつまり，ありがとうがあたりまえ！」**

- ・ 年度当初に，代表委員会を行い，昨年度の吉田小学校のよかったところや頑張りを振り返った。その後，児童会執行部を中心に，今年度の児童会学校目標を決めた。

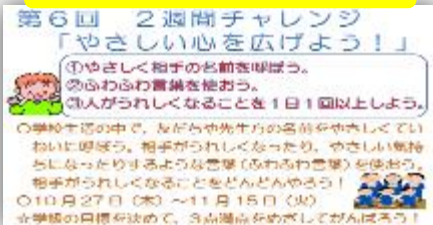
このことにより，今年度，吉田小学校をどのような学校にしていきたいか，児童全員で共通の目標を持つことができた。



**2 2週間チャレンジの取組**

- ・ 毎月1回程度，児童会執行部が中心になって「生活目標」を決め，具体的な評価項目を設定して2週間取り組んだ。日々学級ごとに帰りの会で振り返りを行い，2週間後に代表委員会で結果を交流した。その後，次回の2週間チャレンジの目標について各学級の意見を聞き，次の目標設定を行った。

**2週間チャレンジポスター**



**2週間チャレンジの取組一覧表**

1 黙動（もくどう）をやりきろう！	5 黙動（もくどう）をやりきろう！
2 着ベル・傾聴姿勢をがんばろう！	6 やさしい心を広げよう！
3 右側歩行に気を付けよう！	7 もくもくそうじをやりきろう！
4 気持ちのよいあいさつをしよう！	



もくもくそうじ



黙動（もくどう）



くつそろえ

**3 各委員会によるボランティア活動**

- ・ 児童会学校目標を実現するために，各委員会がそれぞれの役割をもとに，吉田小学校をさらによりよくするためのボランティア活動を計画して取り組んだ。



あいさつボランティア



壁磨きボランティア



花植えボランティア

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：意欲付け』

・2週間チャレンジの振り返りをする中で、目標に対して、学級実態や発達段階に応じて課題が微妙に違うため、すべての学級が意欲的に取り組めていないという課題が明らかになった。

そこで、取組開始から1週間後に、給食放送で取組の意図や様子を伝えたり、目標を達成した学級には「〇〇認定証」「〇〇賞」などを渡したりするなど、評価の工夫等を行った。これらのことが児童の意欲につながった。



もくどうマスター認定証

・各ボランティア活動については、始まった当初、活動が休憩時間に行われるため、参加する児童が少なかったり、同じ児童に偏っていたりすることがあった。そこで、給食放送などで実際に参加した児童にインタビューをして感想を聞いたり、活動の様子を写真で掲示したりするなど、ボランティア活動の様子を伝えた。このことにより、いろいろな児童にボランティア活動の輪を広げることができた。

## 取組の成果（効果）『キーワード：自治的活動』

- ・年度当初に、各学級の吉田小学校への思いを取り入れながら、児童会学校目標を設定したことで、各学級の児童が「吉田小学校を、自分達でよりよくしていきたい。」という意識を持つことができた。
- ・2週間ごとに生活目標を設定し、学校全体で取り組むことで、吉田小学校への所属感や一体感が高まった。また、高学年が率先して取り組み、下学年の手本となったことが効果的だった。
- ・各委員会が工夫しながら、様々なボランティア活動に意欲的に取り組むことができた。徐々に活動の輪も広がり、吉田小学校のためにできることをする喜びを感じる児童が多くなった。
- ・11月に行った児童アンケートでは、「係や委員会の仕事をがんばっている」が96%、「くつそろえ」「着ベル」「もくもくそうじ」「黙動」「右側歩行」はいずれも90%以上の児童が肯定的に回答していた。

## 今後の展開『キーワード：継続から学校風土へ』

- ・今後も、こうした児童会活動の流れを継続し、自分達で生活をよりよくするために、目標を決めて取り組む活動や、さらによりよくするための活動の充実を図っていきたい。
- ・代表委員会でも、少しずつ吉田小学校をよりよくするための意見や課題提示等がなされるようになり、子供達の中に少しずつ「自治の力」が育ってきているのを感じることができた。今後は代表委員会の内容を充実させるなど、自分達で話し合っ解決しようとする学校風土を創っていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード：話し合っ解決』

「学校生活をよりよくするのは、自分達だ。」という学校生活づくりへの参画意識を児童に持たせるためには、普段の学校生活の中で、いかに児童の思いや気づきを引き出し、話し合っ解決するという経験を多く積ませるかが重要である。本校では、昨年度から少しずつ学級活動(1)の取組の充実を図るとともに、



学級会の様子(1年生)

「学級会の定例会」に取り組んでいる。そのことによって、児童に「生活の中で問題を見つけたり、生活がよりよくなるようなアイデアを思いついたりした時には、クラスのみんにに相談しよう。」という意識が高まりつつある。また、全校児童集会や各委員会によるボランティア活動等を行うことで、上学年が下学年を思いやり、下学年が上学年にあこがれをもって、仲よく協力して支え合おうとする人間関係ができてきている。こうした日々の自治的な活動を地道に行うことが、児童の自主的・実践的な態度の育成につながるとともに、自治的な集団の育成につながると考える。今後も取組を継続していきたい。

指定校番号	28056	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

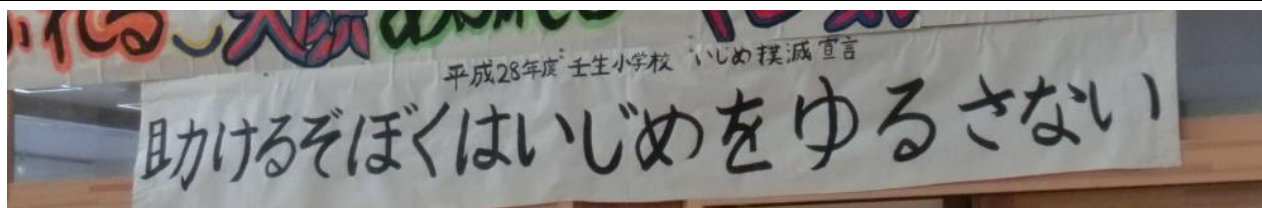
学校名	北広島町立壬生小学校	校長	松島 尚志	生徒指導主事	岡田 克朗
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『児童による「いじめ撲滅宣言」を生かした集団づくり』**

**取組のねらい『児童自身が主体的に行う活動の充実』**

- 1 課題発見・解決力の向上
  - ・ 児童が、自分たちの学校からいじめや、友達を傷つけることをなくしていくための方法を考え、自分たちの考えを実行していくことを通して、いじめをはじめとする人権侵害を自らなくしていこうとする態度を養う。
  - \* 設定課題 いじめをなくすために自分たちで何ができるか。
- 2 思考力・判断力・表現力の向上
  - ・ いじめのない学校であり続けるためにどんなことができるか考え、効果的に実践していく方法や全校に広めていく表現を工夫することを通して、思考力・判断力・表現力を養う。
- 3 自己肯定感・自己有用感の向上（児童会企画委員会及び高学年児童）
  - ・ 自分たちが考え、取り組んだ活動によって、いじめをなくそうという思いや行動が全校に広まっていくことで、達成感を感じ、自己肯定感や自己有用感を高める。

**取組の具体的内容『自己決定によるめあての設定とふりかえりによる態度の定着』**



- 1 児童会企画委員会が、全校に呼びかけ、「いじめ撲滅宣言」をつくることを全校に呼びかける。
- 2 作成した宣言を全校に発表するときに、以下の内容を学級に提案する。
  - ・ いじめ撲滅をつくるときに集めた意見や、児童会企画委員会の話し合いにより考えた「今、課題だと思うこと」や「やったらいいと思うこと」を具体的に設定する。それに基づいて各学級で目標を設定し、いじめをなくすことを意識して生活し、壬生小学校から自分たちの力で、いじめをなくしていく。各学級の目標は、できるだけ具体的にし、行動に表しやすいものにする。
  - （例）全体目標「言葉づかいに気を付けよう」→学級目標「ちくちく言葉を使わないようにしましょう」  
「仲間はずれをなくそう」 →学級目標「一人の人がいたら声をかけよう」  
「遊ぶときは友達をさそおう」（等）
- 3 各学級で決めた目標をカードに書き、掲示する。
- 4 この目標を意識して生活する。意識させるために定期的に学級の暮会で、振り返りをする。
- 5 定期的な振り返りにより、学級の目標を強く意識させる。また、学期末の児童総会では、各学級代表が、自分達が行った結果を発表する。
- 6 児童総会の結果や、2学期の様子を踏まえて、3学期の「いじめ撲滅」に関する目標を児童会企画委員会は考え、全校に提案する。これを受けて各学級では、継続して「自分たちで安心して生活できる学級をつくっていく」態度を育てていく。





## 取組の課題・創意工夫『児童の自主性・自治能力の発揮』

### 課題

児童会活動や委員会活動の内容にあまり変化がなく、課題を発見し解決する活動として改善の必要がある。

児童が、児童会・委員会活動に意欲的に取り組んでいるが、成果を実感できにくく、達成感や自己肯定感を十分に感じられていない。

### 創意工夫

この取組では、昨年度まで、自主的に「いじめ撲滅宣言」を決定してきた活動を継承、発展させた。児童会企画委員会が「いじめをなくす」ために呼びかける内容を自分達で考えさせた。その訴えに対して、各学級の児童が確実に応え、「安心して生活できる学校づくり」を進めるために全児童が取組を行って行く。このことを児童会企画委員会の児童が、発見した課題を解決するために活動した成果として実感し、自信と達成感を感じるよう工夫した。

他の委員会活動においても、少しずつ生活を向上させることができていることや、発見した課題を解決していることを意識できるよう評価するなど、活動への意欲が高まるよう配慮している。児童が活動したことが全体の成果になっていることを強く実感することで、課題の解決への自信や意欲が高まったり、自己肯定感、自己有用感を向上させたりしていきたいと考える。

## 取組の成果（効果）『児童の姿の成長』

2学期末に行った児童アンケートの結果は次の通りである。

(数値は肯定的回答の割合)

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| 「学校は安心して生活できる」            | (90%) |
| 「自分は友達から認められている」          | (85%) |
| 「自分は、クラスの友だちや他の人の役に立っている」 | (85%) |

取組を通して、全校で上級生を中心に、「いじめは許さない」とみんなが思っていることを再確認したり、学級でいじめをなくそうという

目標をもって、友達と話し合ったりできたことが、少なからず学校で安心して生活できるという思いを強めることにつながった。児童総会ではどの学級も具体的に学級を取組の様子を発表することができた。

このことで、中心的に関わった児童会企画委員会の児童の活動への意欲も高まったととらえている。

6年生全体でも、まだまだ少ないが、自分たちで課題を見つけ、解決を訴える場面も見られるようになってきている。2学期末のアンケートでは、児童の自己肯定感や、自己有用感も高い数値を示した。



## 今後の展開『創造と継続』

「自分たちの生活をよくしていくために、自分たちで行動していく。」ことが児童会・委員会活動の大きな目標であることを自覚した上で、児童が活動に取り組んでいく風土をつくっていく。そのために、児童会企画委員会をはじめとするすべての委員会で、活動の目的を確認することと、目的に即して、成果を振り返ることを行い、成果が生活の中に現れている様子を具体的につかめるよう評価し、生活の課題を見つけ、解決していく活動を重ねることが重要であると考えます。

## 他校へのアドバイス『支援と評価』

活動にあたって、自己決定の場を大切にすることが重要である。「昨年度、取り組んでいたから」、「先生に言われたから」というあいまいな理由では、活動の意欲付けにならない。「自分たちが見つけた課題を、自分たちで解決していく」ことを目標として常に意識付けることが大切である。

指定校番号	28058	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷小学校	校長	沖 章生	生徒指導主事	村上 敦
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！〇万人！～』**

**取組のねらい『キーワード 課題発見解決能力の育成』**

- 全校児童が課題意識をもち、あいさつ運動の目標や実施方法などを考えることにより、生徒指導上の課題発見・解決能力の向上を図るとともに、児童の自主的・実践的な態度を育てる。
- 道徳の時間を活用し、「礼儀」に関する価値項目の授業を行うことで、日ごろからお世話になっている地域の方々に対する感謝の気持ちを伝えていきたいという心情を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 児童会による自治的な活動と道徳の時間の活用』**

**児童会による活動**

- ①児童会役員による話し合い
  - ・すすんであいさつができる学校にしたい。
- ②全校代表委員会で提案
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！ 8000人！～」（5月）
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！20000人！～」（10月）
- ③各クラスで具体的な取組の話し合い
  - ・相手より先にあいさつをしよう等
- ④2週間の「あいさつ強化週間」の実施
  - ・児童会役員によるあいさつ運動
- ⑤児童会役員による集計
  - ・5月・・・13070人達成 10月・・・29795人達成
- ⑥目標達成を実感し、今後の意欲を高めるための「全校なかよし運動」の提案
  - ・運動の内容を全クラスに募集
- ⑦代表委員会での話し合いによる遊びの決定
- ⑧「全校なかよし運動」の実施（昼休憩・掃除時間）
  - ・5月 全校おにごっこ 10月 全校ドッジボール大会
- ⑨児童会役員による取組の振り返り
  - ・全校で楽しむことができてよかった。
  - ・高学年からあいさつを広げていきたい。



**道徳の時間との関連**

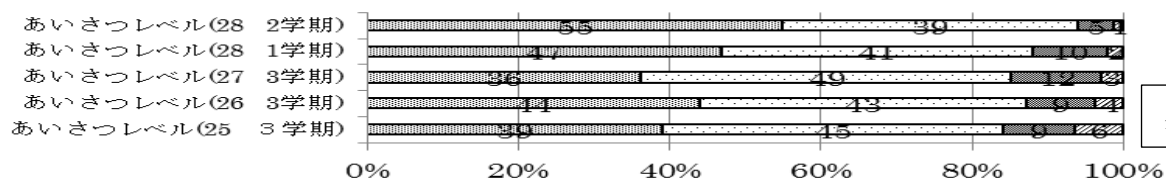
- 「あいさつ強化週間」の事前や実施中に道徳の時間での全校同時期・同価値項目の授業（礼儀）で価値の温めを図る。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自己評価とのズレを解消する』**

**課題**

- 自己評価と地域との評価のズレ
 

学期末の生活アンケートでは、1学期89%、2学期94%の児童があいさつができていると解答しているが、地域からは、「あいさつをしても返さない児童がいる」「もっと本郷小学校の児童はあいさつができている」と意見が寄せられた。また、教職員の評価でも、「まだまだ十分あいさつができているとは言えない」という意見が多かった。（グラフ①）



○取組期間中は、あいさつをする児童が増えるが、終了するとあいさつができない児童が増えてしまう。

#### 創意工夫

○自己評価と他者評価のズレを解消するため、普段の始業・終業のあいさつ（号令）の声の出し方，姿勢などを各クラス徹底して指導していった。

○取組期間が終了しても、進んであいさつができる児童を積極的に評価していく。

○「広げようあいさつの輪大作戦」の取組や課題・成果について「生徒指導だより」にて、家庭・地域へ発信していく。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 児童の変容』

○4月当初に比べ、あいさつをする児童が大幅に増えてきている。また、生活アンケートによる「自分にはいいところがある」と答えた児童の中に、「あいさつが進んでできることが自分のいいところである」と答えた児童が多くいた。

○児童会役員の児童や6年生の児童の中でも、「自分たちであいさつができる学校を作っていきたい」という課題意識をもつ児童が増えてきた。また、クラスでの話し合いでも、「どのようにすればいいか」「自分たちにできることは何か」という課題を解決しようとする発言が見られるようになってきた。

#### 今後の展開『キーワード 学校・家庭・地域の三つ巴の体制作り』

○より児童の主体的な活動となるように支援していく。また、あいさつだけでなく、「学校の課題を児童の創意工夫により解決させる」自治的な活動を仕組んでいく。

○地域・家庭とも連携し、「地域の子どもたちと一緒に育てていく」という視点を持ち、本校の校章（小早川家の家紋）でもある学校・家庭・地域の「三つ巴」の協力体制の構築に努めていく。

○児童による自己評価と地域・家庭との評価に「ずれ」があるため、地域・家庭へのアンケートを実施し、その評価を児童へ返していくことにより、高い目標を持たせ、児童の主体的に実践しようとする態度を高めていく。



#### 他校へのアドバイス『キーワード 教職員主導からの脱却』

○教職員主導の取組から、児童の主体的な活動に変えていくことで、児童は課題意識をもち、意欲的に活動していく。学校の課題を児童と共有し、児童とともによりよい学校を作っていく必要性を強く感じている。

○学校・家庭・地域のすべてが一緒になってともに地域の宝である「子ども」を育てていくという姿勢が大切にし、これからも児童の育成に努めていきたい。

指定校番号	28062	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長	津田 秀司	生徒指導主事	高岡 和也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『チャレンジランキング大会』**

**取組のねらい『キーワード 自発的・自治的活動』**

- 異学年集団の中で仲良く、協力し、信頼し支え合う。
- 集団の一員として自分の役割を果たす。
- 学校生活を楽しく豊かにするための活動を、自発的・自治的にやりきる。

**取組の具体的内容『キーワード 異学年交流』**

- 縦割り班（全 20 班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- 開会式**
- ①班ごとに体育館に集合
  - ②児童会「はじめの言葉」
  - ③ルール説明



- ⑤各班とも、5年生を中心に、ルールを守って静かに待つ。



翌日の児童集会で、結果発表と表彰を行う。



- ④オリエンテーリング  
6年生の考えた 10 種類（ジェスチャーゲーム・伝言ゲーム・バスケシュート・ボーリング・缶タワー・魚釣り・イントロドン・聖徳太子・どれだけのれるかな・宝探し）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねていく。



聖徳太子

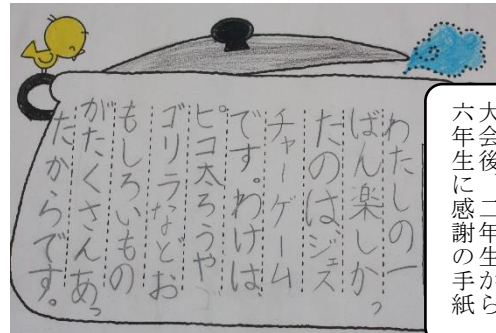


どれだけのれるかな

- 閉会式**
- ⑥再度、体育館に集合
  - ⑦児童会「おわりの言葉」

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的な企画運営』

- 児童会・6年生が中心になって企画運営させる等、自主性を大切にさせた。
  - ①児童会役員から「チャレンジランキング大会」について提案した。(代表委員会)
  - ②児童会役員が6年生全員に提起した。
    - ・係・役割分担の決定をした。
    - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせた。
    - ・ゲーム等の準備物作りをした。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをした。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡した。
- 低学年から6年生へ感謝の手紙を書かせた。



大会後、2年生から6年生に感謝の手紙

## 取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 内容や役割分担，ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで，自己存在感を高めることができた。
- 高学年（6年生・5年生）一人一人が役割を分担し，協力して活動することができた。
- 協力し助け合って取り組んだり，互いのよさを認め合ったりすることで，共感的な人間関係を育てることができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり，下級生が上級生をよい手本にしなが楽しい活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚，リーダーシップ等を，6年生から5年生に引き継ぐことができた。
- 自己肯定感が高まった。

チャレンジランキング大会後のアンケート集計 6年生・5年生 (73人)

1 そう思う      2 ややそう思う      3 ややそう思わない      4 そう思わない

項 目		1	2	3	4
①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジランキング大会にしようと思った。	人数	61	11	1	0
	%	84	15	1	0
②一人一人の思いやねがいを大切にしたいチャレンジランキング大会をすることができた。	人数	49	20	4	0
	%	68	27	5	0
③高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。	人数	62	9	1	1
	%	86	12	1	1
④高学年(6年生・5年生)が手本となり、低中学年(1～4年生)を思いやりながら活動することができた。	人数	56	16	1	0
	%	77	22	1	0
⑤チャレンジランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年(1～4年生)に守らせることができた。	人数	44	24	4	1
	%	61	33	5	1
⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。	人数	50	19	4	0
	%	69	26	5	0
⑦チャレンジランキング大会後、あなた自身に達成感(やり切った)や満足感(やってよかった)がわいてきた。	人数	60	7	4	2
	%	82	10	5	3
⑧この大会を通して、あなた自身が成長した。	人数	57	11	4	1
	%	79	15	5	1

## 今後の展開『キーワード 5年生につなげる』

- 3学期後半、5年生中心の児童会活動(2月14日:平成29年度前期児童会選挙運動開始,2月21日:前期児童会選挙役員選挙,3月1日:児童会役員引継ぎ式,3月8日:6年生を送る会)につなげる。
- 児童会月間生活目標やあいさつ運動強化週間等に生かす。例:2月の生活目標「他の学年にやさしく声をかけ、元気なあいさつをしよう」

## 他校へのアドバイス『キーワード 線にする取組』

- 学校行事や特別活動が、年間を通して生徒指導の三機能を育むための取組になっていることが大切である。
- 4月:遠足(1年生を迎える会)→5月:運動会(応援合戦)→8月:宿泊体験学習(体験学習)→9月:修学旅行・社会見学(校外学習)→10月:学習発表会(全校合唱)→11月:社会貢献活動(地区児童会)→12月:チャレンジランキング大会(オリエンテーリング)→3月:6年生を送る会(各学年の発表)

指定校番号	28064	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	永井 利明
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動』

取組のねらい『主体性や自主性の育成』

全児童がよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに6年生にリーダーとしての自覚と責任を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

◎あいさつの取組



○あいさつ運動

- 児童会役員の方約「あたり前のことをあたり前にする学校」をめざし、あいさつもあたり前にできる学校にする取組として児童会と教職員であいさつ運動をする。

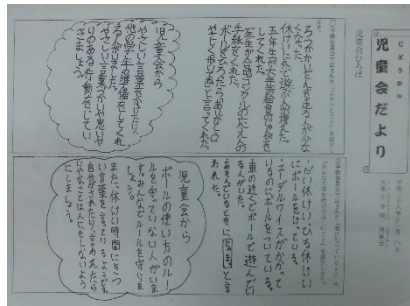
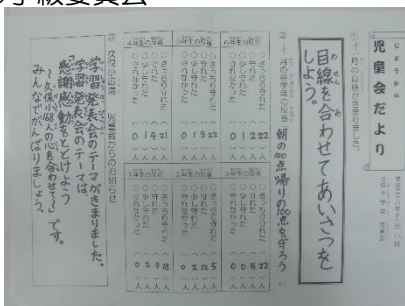
○あいさつ貯金魚

- 児童会役員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつのよい児童に対して鱗の形をしたグッドカードを配り、各学年の一人当たりの枚数で比べ、優勝した学年には全校の前で表彰する。

○あいさつ名人の認定

- よりよいあいさつができる児童を増やすために、よいあいさつの基準を示し、よいあいさつができる児童を名人に認定し、表彰する。

◎学級委員会



○代表委員会

- 児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話し合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。  
(各学年で話し合ってくる内容)
- 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

※事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- ・よかったことについては全校集会で紹介する。
- ・気になっていることや困っていることは、児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。

#### ◎リーダーの育成



#### ○縦割り班活動

- ・灯籠づくりの際、縦割り班の6年生が、1年生に作り方を指導したり、休憩時間に転がしドッジや鬼ごっこなどの他学年との遊びをしたりする。

#### ○集会などの引率

- ・毎週火曜日の集会に、6年生が他学年を並ばせ、体育館に引率したり、ランランタイムやジャンピングタイムなど他学年の前に立って指導したりする。

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底』

- ・生活目標を考えることはできたが、日々の生活の中で課題を意識することができたが、全ての児童が行動できていない。
- ・6年生へのアンケート調査では、「他学年を時間内に連れていくことができた」と「他学年を静かに連れていくことができた」が、1学期は91%だったが、2学期末には75%まで下がった。また、声掛けをしたり、注意をしたりすることができていない児童がいるという課題が出た。

### 取組の成果（効果）『キーワード 自覚と習慣化』

- ・学期の振り返りのアンケートで「学校で起きた問題に気付くことができた」が、1学期が74.1%から2学期は85.5%に、「学校で起きた問題に対して、友達と協力して解決することができた」は1学期が73.6%から2学期は77.1%まで上がった。
- ・6年生にリーダーとしての役割を与えることによって、久保小をリードしている自覚を持って行動する児童が増えてきた。

### 今後の展開『キーワード 継続と発展』

- ・学級会活動で自分たちの生活を見直すことによってよりよい学校にしていこうとする実践的態度を養うことができる児童が増えてきた。また、6年生をリーダーとして位置付けることによって最高学年としての自覚と責任を持つことができつつある。この取組を継続し、さらに学級会活動を活発にし、学校生活をより良くしたり、リーダーが主体的に活動したりするような取組をしていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 主体性の育成』

- ・自分たちの学校をよりよくするためには、どのようにしたらよいかを自分たちで考える話し合い活動を充実させる。
- ・児童会役員や6年生に役割を与え、どのような活動にしていけるのがよいか考えさせることによって主体性が育成される。

指定校番号	28065	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	上野 克典	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『校風を創る』**

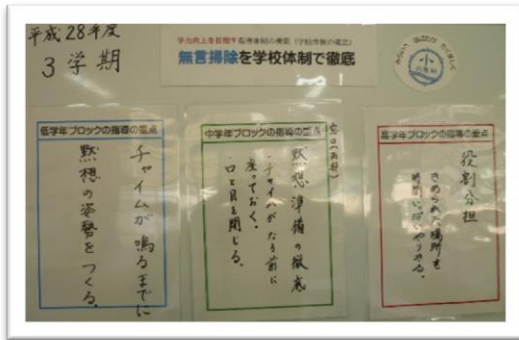
**取組のねらい『校風を創造するために必要な資質、能力の育成』**

- ・課題発見・解決能力の育成（自ら課題を見つけ、それに取り組む）
- ・自己肯定感を高め、自己指導能力を身に付けさせる。

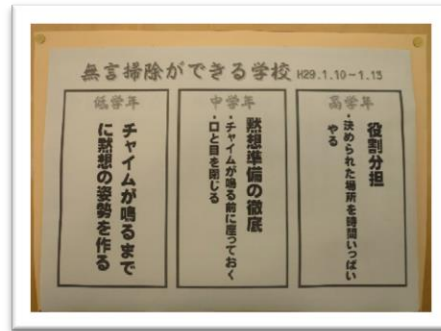
**取組の具体的内容『PDCA サイクルに則った課題解決』**

- ①問題の発見，目標の設定：「一人一人が役割を自覚し，よりよい学校を創る」（委員会活動の活性化と常時活動）・『無言掃除』を学校の伝統に引き上げる」
- ②課題の解決に向けた協議及び方法の決定：児童会からの提起←→各学級で課題解決に向けた取組を協議（一人一人の児童が課題を共通認識及び合意の形成：意欲の向上）←→学校体制で支援（教職員はブロックに分かれて「無言掃除」の具体化に向けた重点指導項目を一週間のスパンで設定）

【「無言掃除」ブロック重点指導項目】



【重点指導の見える化：共通理解】



- ③実践化（自己有用感，肯定感の育成，意義・目的の理解，役割の自覚化，責任ある行動をめざす）
- 全委員会で常時活動を実施・評価活動の充実（意欲の向上）→よりよい生活をつくろうとする態度
- （例）栽培委員会・花の水やり・清掃活動

【栽培委員会の常時活動】



【評価活動の充実：意欲化】



美化委員会・「無言掃除」の点検，評価・清掃活動 等

【掃除前の黙想】

【掃除の様子・美化委員会点検】

【掃除の評価】



- ・校内放送で無言掃除ができていない場所を評価
- ・がんばり表にシールをはる—評価の見える化



○児童会による挨拶運動―「因島南小あいさつの木」の取組（全学級輪番で挨拶運動に参加）

【児童会：掲示物作製】

【協働：児童会への支援活動】

【あいさつ運動の実際】



○「因島南小4つのきまり」を基軸に学校風土の創設―自己の成長を実感，自己肯定感に繋げる。

【学級活動：はきもの揃え係】一点検と課題の発見

【はきもの揃えの現状】



④定期的な振り返り―意識化，実践の継続，新たな課題の発見→次の段階，ステップへ

#### 取組の課題・創意工夫『課題発見力と評価の充実』

- ・課題解決能力の育成には，まずは，実態を見せ，課題を発見させ明確にすることが必要である。次に明確にした課題を分析し，誰がどのようにして取り組み実践していくのかを児童と協議し，それを共有することが重要である。児童との共有化においては，工夫，改善する必要がある。
- ・児童の実践における意欲の高揚，継続化を図るための評価を点検表に記入する等して児童に返していった。日常的な評価は次の活動意欲に繋がった。

#### 取組の成果（効果）『取組のプレゼンスを問う』

- ・常時活動をする意義を自己の成長と学校の形成者としての自己の役割の中で捉えさせることにより，責任を持って活動する態度が身に付くとともに自己有用感が高まりつつある。
- ・「はきもの揃え」の取組では，揃え方のモデル（掲示物）を児童と共有し，各学級の点検活動を展開することで，自己指導能力の育成を図った。また，校内放送を活用し，取組の意義を理解させるとともに，児童への評価活動を大切にした。結果として，児童肯定的評価は91.2%であり，児童の意識は高揚し定着してきた。

#### 今後の展開『話し合い活動の充実』

- ・児童会と連携し，学校生活における問題点に気付かせ，それを話し合い活動を通して，解決させるシステムの一層の確立をめざし，それを充実させる。
- ・児童とともに「無言掃除」を校風に引き上げる営みを行う。（3学期の最重点目標として，全職員で共通認識）

#### 他校へのアドバイス『意識付け・共有化』

- ・児童の主体性を育成するには，児童と課題を共有し，実行のための計画（方策の思考），振り返りを意識付けることが重要である。
- ・全児童による課題（取組の存在意義を含む）の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を推進するうえで必要不可欠である。

指定校番号	28067	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	丸山 信宏
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『なんでも文化発表会』**

**取組のねらい『キーワード 自己存在感と自己有用感』**

- 児童が日頃の学習や自主的な文化的活動の成果を発表することを通して、自己存在感，自己有用感を高めることができるようにする。
- 児童が他の友達や異学年の児童の発表を見ることを通して，自己を伸ばそうとする意欲をもてるようにする。
- 後期自伸会執行部の児童が自主的かつ主体的に運営することによって，自己存在感を高めることができるようにする。

**取組の具体的内容『キーワード 主体性』**

○後期自伸会執行部の児童が中心となり，計画の立案，練習・リハーサル時の見守り，発表会当日の運営等を行う。

**計画の立案**

- ・執行部会で実施計画を立てて，自伸会朝会等を使って全校児童に参加の呼びかけを行う。



**練習・リハーサル時の見守り**

- ・練習計画を立てて，参加する個人・グループの練習に立ち会い，必要に応じてアドバイスを送る。



**発表会当日の運営**

- ・会場準備や司会等，発表会当日の運営を行うとともに，終了後は5・6年生とともに会場の片づけを行う。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 時間と場の確保』**

○参加の呼びかけをしたところ，今年度は26の個人・グループの参加申し込みがあった。音楽室や視聴覚室等での練習，体育館でのリハーサルができるように練習計画を立てたが，十分な練習時間を確保することが難しい。

○学校行事の見直し等により，「なんでも文化発表会」は平成24年度から昼休憩に行っている。全学級にプログラムを配布したり，告知放送で観覧を呼びかけたりしているが，全員が観覧できるようになっていない。



**取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感と自己有用感』**

○ピアノ，合奏・合唱，ダンス，劇など5日間に渡って実施したが，連日200人前後の児童・保護者が観覧し，たいへん盛り上がった。

○児童アンケートでは，「日頃からがんばっていることを多くの人に見てもらえた」「見てくれた人が楽しんでくれた」「自分たちの力で創り上げるのはたいへんだったが，クラスが団結し，いい思い出となった」等，約89%の児童が参加してよかったと回答している。



○保護者アンケートでは、「自分が得意なことを発表できるよい機会だと思う」「がんばっている姿が伝わってきた」「一人一人がのびのびと発表していた」「児童の聞く態度もよかった」等、約89%の保護者が「たいへんよかった」と回答している。



### 今後の展開『キーワード 広がり』

- 「なんでも文化発表会」は10年以上も前から行われており、児童・保護者の間にも十分浸透している取組である。児童アンケートでは、「来年度も発表会に参加したい」と回答した児童は約85%に上り、継続して参加しようとする意欲をもっている。
- 観覧した児童に「来年度、発表会に参加したいか」と聞いたところ、参加したいと回答した児童が約35%にとどまっている。自己表現できる場の一つとして、参加に向けた働きかけを行っていく。
- 「発表時間が短かった」「もう少し時間を延ばしてほしい」という意見が、児童・保護者アンケートから出された。発表時間を延ばすと開催日数を増やさなければならないため、来年度以降の方向性を議論する必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード 場の保障』

- 「なんでも文化発表会」は、自分と同じ学年の友達の発表だけでなく、異なる学年の発表を見ることができる場である。発表を見ることで、「すごいな」「がんばっているな」と相手を認めることにつながる。また、発表する児童は、自分のがんばりを見てもらうことで「やってよかった」「これからもがんばりたい」という意欲が高まる。
- 後期自伸会役員が中心となって、「なんでも文化発表会」の運営を推進する過程で協力的な人間関係を学ぶことができる。



指定校番号	28068	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	廣澤伸高	生徒指導主事	駒木 忠
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『ハッピータイム』**

**取組のねらい『キーワード リーダーの育成と仲間意識の向上』**

- ・児童会執行部と他の6年生全員の主体的活動を促し、庄原小学校を盛り上げようとする自覚や態度を養う。
- ・庄原小学校の一員であること、仲間と共に成長していくことを意識させ、所属感を高める。

**取組の具体的内容『キーワード 異学年交流』**

- ・児童会執行部が話し合い、1年生から6年生まで全員が楽しめる児童会行事を「ハッピータイム」と命名し立案した。児童会執行部が他の6年生に企画を呼びかけ、実行することになった。
- ・まず6年生のみの話し合いで、6年生リーダー・副リーダーを決定した。各班3～4人の6年生が班活動の内容を話し合い決定した。
- ・各学年の児童を班分けして縦割り班を結成した。
- ・月に1回行うハッピータイムと学期に1回行うロングハッピータイムを企画した。ハッピータイムは各班の班遊びを行った。ロングハッピータイムは、「1学期・校内ミニウォークラリー」「2学期・しょうばら GO」を行った。
- ・班活動中にトラブルが発生した場合は、6年生を中心に話し合い活動を行った。
- ・活動の最後には「反省と振り返り」の時間を設け、次回への見通しをもたせた。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的・自治的活動の活性化』**

**6年生リーダーと班活動の内容の決定 縦割り班の結成**

- ・児童会執行部や友達に任せることなく、自分が主体となって積極的に意見を出し活動を計画したり運営したりするために、6年生一人一人がリーダーや副リーダーの役を担う。
- ・縦割り班結成時は、各学級2名程度の定員になるように分け、一つの班に全学級の児童が所属するようにする。

**班活動（班遊び）**

- ・ドッジボール、かくれんぼ、だるまさんがころんだ等、特別ルールを設定するなど「1年生から6年生まで全員が楽しめる」という視点で6年生が考える。



(班遊びの内容をカードに書いて説明)



(1年生から6年生まで全員が楽しめる遊び)

**全校の活動（ミニウォークラリー大会）**

- ・6年生が総合的な学習の時間、「しょうばら GO ふるさと庄原のよさをゲット&アピール」で学んだことをハッピータイムで活用する。6年生がプレゼンターとなり、他学年に、総合的な学習の時間に調べたことをクイズ形式で出題する。1年生から5年生は、グループごとに次のポイントへ移動しふるさとのおよさについて発表を聞いたり、次の問題に挑戦したりする。



(6年生が出題し、他学年が考える)



(調べたことを模造紙にまとめ分かりやすく発表)

### 話し合い活動

- ・班内でトラブルが発生した場合、6年生が中心となり話し合い活動を行う。各班に担当職員は配置するが、6年生が主導し、話し合いの必要性や内容を判断して行うようにする。

### 反省と振り返り

- ・班活動後は、良かった点や直した方がよい点について班ごとに振り返りをさせる。それをもとに、6年生のリーダーと副リーダーが次の活動の計画を立てる。

### 取組の成果(効果)『キーワード 達成感と自覚』

- ・開始当初は、6年生同士の話し合いもまとまりにくく、他学年に話したり説明したりすることにも困難性が見られた。しかし、回を重ねるごとに自分の意見を言ったり、他学年に自信をもって説明したりすることができる児童が増えてきた。他の行事や普段の生活においても、「自分の役割を果たす」「原宿の手本となる」自覚や態度が見られるようになってきた。例えば、複数学年が行うそうじ場所(児童玄関げた箱)で、他学年と協力したり的確な指示を出したりしながら「もくもくそうじ(本校が取り組んでいる、黙って時間いっぱいそうじを行う合言葉)」に取り組めた。
- ・6年生の自信をもった表情や態度を見た他学年の児童の中に、「自分もやってみたい」「6年生ってカッコいいな」と感じる児童が増えた。
- ・異学年交流を進めたことで、学校に安心感をもって登校できるようになってきた。学校評価児童アンケートにおいても「学校、学級が楽しく安心できるか」という問いに9割以上の児童が肯定的回答をした。

### 今後の展開『キーワード 継承』

- ・ハッピータイムなどの児童会行事を継続していくとともに、そうじや通学班での登下校など、日々の生活の中でリーダー性が発揮できるよう働きかけていく。
- ・児童会活動をリードしていく高学年の自覚を促す。
- ・現執行部の児童が、次の学年や次期執行部に児童会活動の目的や目指す学校像を伝えていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 自主的な活動』

- ・児童会執行部のアイデアを尊重し活動を仕組んでいくことで、取組を活発にしていくとともに、同学年の児童会執行部以外の児童も活動の中心に据えるようにしていくとよいと思います。
- ・異学年集団をつくり、計画的、継続的に活動を行うようにすると、他学年への接し方や声かけの仕方を考え実践する機会が増えると思います。
- ・総合的な学習の時間に学んだことを他学年に発信していく場としても有効です。学んだことが行事に活用されると、「次はこの視点で…」「次はこの課題に…」というように、主体的に学習に取り組む姿勢にも現れました。

指定校番号	28081	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立城山北中学校	校長	松島範明	生徒指導主事	教誓英憲
-----	------------	----	------	--------	------

**取組事例名** 『小・中合同あいさつ運動』

**取組のねらい** 『さわやかスマイルMTC（城山北中学校区スタンダード）』（93.8%）

・ 9年間を見通した小・中連携の取組の一項目である『時と場に応じたあいさつや返事、言葉遣いが出来る』生徒の育成を目指し、異学年交流を土台とする継続的な取組を実践する。

**取組の具体的内容** 『小・中合同あいさつ運動』

- ・平成26年度より、生徒会執行部を中心に、幟（標語は毎年生徒から募集）やたすきを利用して、年3回（1回につき2日間）実施している。
- ・各小学校の校門だけでなく、小学校の朝の取組（“あいさつ運動”等）に参加し、校舎内を回ったりすることもある。
- ・中学校では、毎朝、校長をはじめ、担当教員、生徒会担当生徒（執行部・生活委員会）、ボランティア生徒（主に部活動生徒）が、プラカードを手に、正門で“あいさつ運動”を行っている。
- ・定期的にPTA生活部の保護者や小学校の生徒指導主事も参加していただいている。

**取組の課題・創意工夫** 『各校の校長と保護者の理解・協力と校内調整、小・中連携の定例化』

- ・生徒の安全な移動と授業への影響を最小限に（→教員・保護者の理解と協力＝校内調整）。
- ・生徒会執行部生徒と教員だけの活動から、より多くの生徒の参加を実現させる手だての工夫。
- ・今年度は、各校共に生徒指導主事が時間調整し易い状況にあったが、今後、小・中連携の定例化をどう仕組んでいくか。
- ・教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。

**取組の成果（効果）** 『きちんとしたあいさつの意識と実践の継続』

- ・立ち止まってきちんとあいさつをする生徒が、校内外共に以前より多くなってきた（96.7%）。
- ・年齢相応の意識を持てる生徒が出始めている（83.3%）。
- ・一つの活動を継続して取り組むことで、自己肯定感と連帯感（共感的人間関係）が養われている。
- ・PTAの参加が次第に増え、生徒の様子を見ていただいたり、教員との会話が増えたりしてきた。

**今後の展開** 『交流の活性化、連携と継続』

- ・より多くの生徒の参加の実現（→生活委員会の活用、学級別や地域別ボランティア生徒の募集等）。
- ・小学生に中学校の“あいさつ運動”に参加してもらう手だての工夫（→小・中連協をより密に）。
- ・教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。

## 他校へのアドバイス『小・中連携の充実と継続』

- ・生徒指導主事の定期会合（連絡協議会）の実施。
- ・日頃から学校訪問や電話連絡など、情報交換等をより密にする努力。
- ・特別支援コーディネーターや生徒会担当、SSW、SC等々を含めた交流（親睦）。
- ・校内で、生徒指導部内はもちろん、教務部との連携（意見交換）の活性化。

### 《写真資料》



指定校番号	28083	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎中学校	校長	松脇 守弥	生徒指導主事	山縣 雅樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会オリエンテーション・対面式など、年度初めの生徒会取り組み』

**取組のねらい** 『キーワード リーダーシップと所属感の育成』

生徒主導の意識をもたせて生徒会の取り組みをすすめることにより、生徒同士のつながりが強くなり、所属感の育成へとつなげるねらいをもっています。また、生徒会執行部や各部活動の部長を中心に主体的な動きを促すことにより、リーダーシップの育成を図りたいと考えています。

**取組の具体的内容** 『キーワード 生徒主導ですすめるオリエンテーション』

入学式からの1週間以内で、生徒会執行部や各部活動部長が主導で新1年生を迎え入れる取り組みを行います。具体的には生徒会活動、掃除の仕方、部活動のオリエンテーション、新1年生を歓迎する会（対面式）などを行います。中学校での毎日の動きや、生徒会活動について、教師主導ではなく、生徒会の生徒主導で新1年生に伝え、親近感を持たせるようにしています。部活動オリエンテーションでは、部活動の魅力を各部長が中心に活動を見せ、興味を一層引き立たせるようにしています。対面式では生徒会執行部が中心となり、中学校生活に関するクイズやゲームをしていき、新1年生が中学校生活への不安を乗り越えられるようなアイスブレイクとなる時間を作り出します。



**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 生徒主導のために、事前の生徒同士・教師側の取り組み』

入学式から1週間以内で、新1年生に対して様々なアプローチを生徒主導で行っていきませんが、前年度から生徒会執行部、学級、部活など、計画的にそれぞれの役割を分担して新年度を迎えます。生徒の動きがスムーズに進められるよう、教師が事前に生徒とともに準備を考え、取り組みを支えるようにしていきました。





## 取組の成果（効果）『キーワード 学年を越えた生徒同士のつながり』

小規模校なので、一人ひとりの存在、行動が大きなムーブメントになる可能性を秘めています。学校入口には『家族のようにつながりあう亀崎中学校』というスローガンが掲げられているように、年間を通して様々な行事や取り組みで、学年を越えた関わりが多くあります。そのきっかけとなる年度当初の大切な生徒会活動だと言えます。



## 今後の展開『キーワード 生徒指導の三機能の充実』

教師主導よりも、生徒が主体的に動き、生徒同士のつながりを深めていくことで、今後の生徒会活動が一層意味のあるものになっていくと考えられます。新1年生の安心感を醸成することにも影響を与え、共感的な人間関係にもつながり、さらに2、3年生にとっては、生徒指導の三機能にある自己存在感・自己決定の育成につながるものだと考えます。

## 他校へのアドバイス『キーワード 生徒主導を仕組むことと、生徒任せにするものの認識のずれを起こさないようにする』

生徒主導でオリエンテーションや対面式等を行っていきませんが、取り組みの成果を生徒に味わわせるためには、生徒が主体的に当日の会を進めていくための細かな準備、手立てやこの活動による目指しているものは何かということを常に教員同士が確認し、共通認識が事前にできている必要があります。

指定校番号	28096	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田大介	生徒指導主事	北野茂樹
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『生徒会活動』**

**取組のねらい『感謝、思いやりの心を育てる』**

命の大切さや仲間の気持ちを考えられる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成する。

**取組の具体的内容『ハートプロジェクト』**

「ハートプロジェクト」  
この取組は昨年度から始まり、今年度5月の生徒総会でも生徒会執行部から以下のように提案され、承認されて取り組んでいる。

- 大竹中学校「生命尊重の日」（5月23日）の取組を1年に1回ではなく、毎月各クラスが担当して発表を行い、命の大切さや仲間の気持ちをもっと考えることができるようにする。
- 日頃お世話になっている方、学校を支えてくださっている方に感謝の手紙を書いて送る。
- 「ハートフルボックス」を設置し、そこに誰かへの感謝の気持ちを書いて入れ、昼の放送で流す。



生徒総会の様子

**取組の課題・創意工夫『協同』**

**創意工夫**

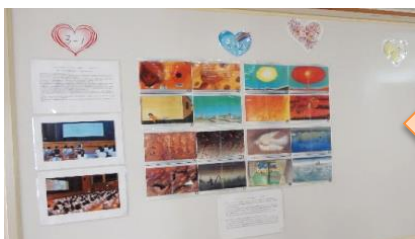
- 「3年1組の発表」  
6月23日(木) 「平和」をテーマに、昨年度全国高校放送コンテストで準優勝に輝いた広島県立五日市高校放送部制作のラジオドキュメント『君に伝えたいこと』を紹介し、被爆者の方々の思いを大切に、人の命や人の気持ちを大事にできる人になりたいと訴えた。  
この放送のあと、6月24日から3日間、熊本地震被災者への募金活動にも取り組み、その趣旨に賛同し、多くの生徒が募金に協力した。

(1年生の感想)「私は、生徒総会の時に、『ハートプロジェクト』を1ヶ月に1回やることに、正直言って反対していました。でも、この話を聞いて、自分の命や人の命の大切さを、今までよりもっと知ることができました。今日の発表を聞いて、1ヶ月に1回に反対したことを、今とても後かいています。これからは、もっとお話を聞きたいなと思いました。」



- 「3年3組の発表」  
9月23日(金) 中学校の先生で、詩人でもある醍醐千里さんの「魂の約束」という詩を紹介し、「日頃の生活の中のあなたの笑いは、魂を輝かせる笑いなのか、魂をくもらせる笑いなのか、考えたことがありますか?」と問いかけた。

(2年生の感想)「私は、今日の話聞いて、神様から頂いた魂を大切に、人を大切にしたいと思いました。自分が悪いことをしたら「ごめんね」と、友達やいろいろな人に何かしてもらったら「ありがとう」と、たった一言だけど、自分の気持ちが伝わる一言なので、言葉を大切にしたいです。」



各クラスの発表内容は、1階の生徒会ボードに掲示し、振り返ることができるようにしている。

○「生徒会長による地域への発信」

7月2日(土)、サントピア大竹で開催された「市民のつどい」で、生徒会長が「ハートプロジェクトを通して」と題して、生命尊重をテーマに意見発表を行い、学校の取組を地域に発信した。

この作文を「青少年の非行・被害防止」「社会を明るくする運動」作文コンテストや人権作文コンテスト廿日市地区大会に応募したところ、大竹市長賞や優秀賞を受賞した。



○「2年1組の発表」

10月24日(月) 道徳の授業で学習した動物の殺処分について考えたことを発表した。日本では、飼い主の勝手な理由で毎年10万匹以上の動物が保健所に連れて行かれ、人間の手で殺処分されている。この事実を多くの人に知ってもらい、動物の命を軽く扱う社会を変えようと訴えた。

(3年生の感想)「僕の家には犬がいるのですが、最後まで生きてほしいという気持ちで今育てています。自分の家で育てられないのだったら、最初から飼わないでほしい。人間も犬も最後まで生きようとしているのに、それを台無しにするなんて最低だ。ぼくはこんなことを思いながら聞きました。」

**課題**

○発表だけに終わらせず、発表に対しての他学年他クラスの生徒の感想を給食時に放送するなどして、双方の取組になるよう工夫する。

**取組の成果(効果)『主体性』**

- 生徒の感想の中にもあるように、自分や身の回りの人の生命の大切さなどについて考える機会が増えた。
- 発表内容をクラスで考えることで、自分たちで調べ考える良い機会となっている。
- 生徒たちが、先輩から引き継がれてきた生徒会の取組の良さを実感しており、生徒会活動に主体的に取り組む姿勢が見られる。



感謝や思いやりの心を大切にする  
**ハートプロジェクト**



ハートプロジェクト 朝会での発表の様子

**今後の展開『改善・工夫・発展』**

○これまでの生徒会活動の成果や課題を整理して、生徒指導部、生徒会執行部等で、今後の取組の改善、工夫を図ることで、さらなる発展をめざす。そして、その内容をまず全教職員が共通理解して生徒の活動を支援し評価していく。

**他校へのアドバイス『意識統一』**

○生徒会活動の取組に対する教職員の意識統一、意識向上が必要である。また、これまでの取組をミドルリーダー等が次期担当教員や若手教員に計画的に指導、引き継ぎを行う。

指定校番号	28100	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	石角 剛	生徒指導主事	友兼 正樹
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名** いじめのない学校にするために『命の大切さについて考える日』

**取組のねらい** 『キーワード いじめの未然防止／自他の命』

- (1) 5月9日を「命の大切さについて考える日」とし、さらに、5月10日から5月17日を「命の大切さについて考える週間」として、生徒一人一人に自他の命の大切さについて深く考えさせる。
- (2) いじめは命に関わる重要な問題であり、決して許されないことであるとの認識をあらためて強くもたせることにより、生命の尊さを理解させ、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を身に付けさせる。

**取組の具体的内容** 『キーワード 生徒会とタイアップした取組／保護者・地域等への働き掛け』

- 「命の大切さについて考える日」全校集会で、学校長が講話を行った。また、生徒会の主催で、生徒による呼び掛けを行った。
- 「命の大切さについて考える週間」に、全学級において「命の大切さ」を扱う道德の授業（特別支援学級は生活単元学習）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」に係る取組について、保護者懇談会（第2学年）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」の全校集会や、「命の大切さについて考える週間」に実施した道德等の生徒感想文を紹介して、保護者・地域等を対象とした働き掛け（学校だより、学級通信等の発行）を行った。
- 「命の大切さについて考える日」をその日一日に限定せず、「命の大切さについて考える週間」として、つながりをもたせた取組を行った。
- 「命の大切さについて考える週間」の振り返りとして、翌週の生徒朝会を報告朝会とし、執行委員会が、生徒の感想や記録を全校生徒に向けて発表した。

**取組の課題・創意工夫** 『キーワード 指導支援を必要とする生徒を含む全ての生徒への指導』

- ☆ 生徒会オリジナルストーリーの内容については、生徒会担当教諭、生徒会執行委員会で原案を作成した。
- ☆ 養護教諭、特別支援教育コーディネーターの助言のもと、配慮を必要とする生徒、指導支援を必要とする生徒にも伝わりやすくなるよう、スライドを完成させた。
- ☆ 全校集会の日だけに限定せず、「命の大切さについて考える日」の取組をつなぐために、全学年全学級で道德の授業（特別支援学級は生活単元学習）を実施し、一週間を通して「お昼の放送」で歌や絵本の紹介をして、「命の大切さについて考える週間」の特集を行った。  
また、図書委員会では「命の大切さ」に関する本の展示を、保健委員会では「生命」「いじめ」等に関する新聞のスクラップ展示を継続して行っている。
- ☆ 「命の大切さについて考える日」は、3年前の廿日市市で起きた自死に関わる問題であることから、市内全中学校実施されている取組である。  
本校では、事前リハーサルには校長が立ち合い、全校集会の流れや内容を確認した。

**取組の成果（効果）** 『キーワード 自分事として捉える／取組の発信／他教科・他領域との関連』

- ◎ 生徒は、全校集会をスタートとして「いじめ」「命の大切さ」「生きる」について深く考え、自分の思いを自分のことばで書くことができた。
- ◎ 「命の大切さについて考える週間」の期間中には、全学年全学級において、「命・生命」に関わる道德（特別支援学級は生活単元学習）の授業を実施し、生徒会の取組を教師サイドからも深めることができた。
- ◎ 週間中に行われた参観授業においては、第2学年の保護者懇談会で取組のねらいや生徒の様子を紹介した。生徒作文（感想文）を読んだ際には、うなずきながら聴く保護者の姿が見られた。
- ◎ 夏季休業中に開催された「廿日市市・生徒会サミット」で、取組を発表した。

## 今後の展開『キーワード 全国いじめ問題子供サミットへの参加/いじめの取組の継続』

- ◇ 平成29年1月21日に開催される「平成28年度全国いじめ問題子供サミット(文部科学省主催)」へ生徒代表が参加し、サミットのテーマである「学校いじめ防止基本方針に私たちの意見を取り入れよう」のもと、<①いじめを未然に防止するためには、どのような活動が有効か><②どのようなアンケートであれば答えやすいか><③先生や保護者が気付かない、いじめを受けているときのサインは、どのようにしたらよいか><④学校のこんないじめの対応は困る、だからこんな対応をしてほしい><⑤どのような方法ならば相談できるか>の5点について、同世代から学び、交流したことを学校に持ち帰って、全校生徒に向けて報告朝会をする。
- ◇ 3年前から続く「命の大切さについて考える日」を生徒会主体の全校アピールの日として、次年度以降も取組を継続させ、いじめの未然防止について生徒自身で考えるよう、場を設定していく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 生徒間のつながり/意図的な指導や継続した取組/連携・調整』

- ・ 学校全体で進めるいじめの未然防止のためには、教職員側の指導だけでなく、生徒間のつながりについての意図的な指導や取組、いじめのない環境づくりが必要と考える。
- ・ 次年度以降も、生徒主体の全校アピールを組織的・継続的に進めていくためには、教員の異動や校内体制にも対応できるよう、連携や調整、さらに後進へのスムーズな引継ぎのための整備をしていく必要がある。

## 「いじめのない学校」にするために ～命の大切さについて考える日～



“命”ってなんだろう？ 大切な“命”をどう生きる？  
あなたは“命”を大切にしていますか？

“命”は、感じるもので、目には見えないものなんだ。

人生は楽しいもの。けれども、苦しいことや悲しいことや、  
心悩ますこともたくさんあります。  
そんな時どうしていますか。黙って一人で耐えていますか。  
でも、本当につらいときは、

『助けて、助けて』って言ってください。

そして、その小さな声にたくさんの人が気付いたら、  
大切な“命”は守られて、生きていてよかったと思えます。

“命”とは「未来」のこと。「生きる」とは「つながる」こと。



### ◆取組の様子

<p>校長講話</p>	<p>生徒会アピール</p>	<p>第1学年道徳 「望まれて生まれ 願われて生きている」</p>	<p>第2学年道徳 「いじめをノックアウト」 (NHK)</p>
<p>第3学年道徳 「私が生まれてきた理由」 さだまさし</p>	<p>特別支援学級生活単元 「生きるってどんなこと」</p>	<p>第2学年 保護者懇談会</p>	<p>図書委員会「命を大切に するということ」</p>

指定校番号	28115	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『思いやりについて考えよう』**

**取組のねらい『キーワード 思いやり』**

・本校では、目指す学校像を知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神が貫かれた学校とし、その精神を大切にするとともに、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。その中でも、思いやりには欠ける言動があるため、本事例は、生徒会活動を通して、「思いやり」について今一度考えさせ、身の回りにおける思いやりに気付いたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする風土を醸成することをねらいとしている。

**取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整』**

- ・生徒会執行部で「思いやりについて考えよう」ということを企画して、総務委員会で提案し、総務委員を中心に日頃の「学級の思いやり」に立ち返らせ、各学級の思いやりについて定義する。
- ・個々で考え集約した「各学級の思いやり」を受け、「十日市中学校の思いやり」について、総務委員会及び生徒会執行部で協議し定義する。
- ・「学級の思いやり」とともに、「十日市中学校の思いやり」を掲示する。
- ・生徒一人ひとりが日頃から身の回りにおける思いやりに気づいたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする、生徒の自己調整の指針とする。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」』**

- ・生徒会の委員会活動や学級活動で、今回の「思いやりについて考えよう」という活動をはじめ、他にも「ありがとうカード」等の取組をしている。
- ・今後は、これらの取組を通して、生徒たちが気付いたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化する取組を継続させるとともに、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上』**

- ・生徒会行事や活動後の生徒アンケートによると、「自分の良さは、まわりの人から認められていると思う」の項目の目標値 70%に対して、肯定的評価の割合は 80%（1年 88%，2年 74%，3年 78%）であった。
- ・「学校は楽しい」（生徒アンケート）の項目の目標値 85%に対して、肯定的評価の割合は 91%（1学年 98%，2学年 91%，3学年 85%）であった。

**今後の展開『キーワード 居場所づくり，絆づくり』**

- ・今後とも、学習や学級活動、生徒会活動（部活動，委員会活動，行事）等の取組を通して、生徒同士のコミュニケーションで自己有用感が高められる場を増やしていく。そして、生徒たちの活動の様子や感想等を掲示することで、お互いを認め合い、「思いやり」とともに「頑張ること」への視野も広げていくよう仕組む。

**他校へのアドバイス『キーワード 縦割り集団の活用』**

- ・学年を越えた縦割りでの生徒会活動やボランティア活動等を通して、下級生は上級生が集団をリードし、思いやりのあるかかわりをする姿を見ることで上級生の良さを、上級生は集団の一員として前向きに協力しながら活動する下級生の良さをそれぞれ実感させることができる。また、今年度の学級活動では、3年生の立志式での発表会に2年生が、2年生の職場体験学習の発表会に1年生が、それぞれ参加している。立志式では地域でのお年寄りとのサロン交流や家庭科での保育実習等を通して、職場体験学習では福祉施設や看護体験等を通して、改めて「思いやりの大切さ」を学ぶことができた。将来は福祉や看護関係の仕事に就きたいなどの上級学年の生徒の発表を聞き、自分より一歩先の「思いやり」等についての考え方に触れることで、自分の将来について短期的な目標も持てるような取組になることを目指している。

指定校番号	28116	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長	迫田 隆範	生徒指導主事	宮部 英巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』**

**取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』**

本校の生徒指導上の課題として、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従えない、暴言、携帯等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の関わり合いが十分行っていない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっていると考えている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治活動を活性化させることが問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治活動や主体的な活動の推進をすすめることをねらいとした。(今年度2年目)

**取組の具体的内容『キーワード 無理なくさらに進化』**

平成27年度の取組として、生徒会と連携し不十分な掃除から見直した。縦割りの掃除班をつくり、3年執行部+有志を中心に掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。(無言清掃の取組)

平成28年度には、学期前の掃除リーダーの育成、掃除分担の見直し、配置教職員との連携等、少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また、並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後15分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。

**取組の課題・創意工夫『キーワード レベルアップ』**

今年度の取組は、昨年度の取組に修正を加えさらに深化させる方向で行っている。生徒会リーダーだけでなく教職員との連携を行うことで、生徒と教職員が共に目的を共有し、生徒が生徒を指導する負担感を軽減し、生徒間のトラブルを減少させる方向で行っている。掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから、さらに目的意識を明確にした無言清掃へとレベルを上げるのが今後の課題である。また、これと並行して行ってきたボランティア活動も、ペットボトルキャップ分別、折り鶴制作など、教職員・生徒共に無理なく計画・実行ができるようになり、各回約100名程度の生徒が参加することができるボランティア活動になっている。

**取組の成果(効果)『キーワード 意識の向上』**



縦割り班での掃除は、取組前と比べて確実に向上し、生徒自らが主体的に掃除に取り組む姿が見られるようになった。また、掃除を徹底させるためには、ボランティア意識の向上も同時に取り組むことが必要である。ボラン

ティア活動も毎回約100名程度の参加となり意識の向上につながっている。

これらを生徒自らの自治活動で実行するよう、生徒会とも連携を深め、各委員会ごとに活動を決め、(各学級の掃除評価合計、各学級の日々の授業評価合計、各学級の本の貸し出し数合計等)学級単位で評価



をして、学期に1回表彰を行うYATSUGI PRIDE CUP (YPプロジェクト) という取組も昨年度から導入し、お互いが意識し合いながら高まる方法をとっている。

生徒のアンケート結果

○掃除を時間いっぱい行っている	(平成27年7月 84.4%)
	(平成28年6月 88.1%)
	(平成29年1月 90%)
○生徒会活動に積極的に取り組んでいる	(平成27年7月 79.9%)
	(平成28年6月 77.5%)
	(平成29年1月 77%)

### 今後の展開『キーワード 自分たちで』

生徒会の自治活動の活性化という点では、昨年より改善されつつある。「自分たちで」という意識の高まりの成果として、生徒会の行事として全校で参加できる行事を行おうという目標のもと『全校駅伝』を企画し運営した。全校生徒を縦割りの16チームに分けてチームリーダーを決め、チームリーダーを中心として自分のチームの意識を高め、優勝をめざしてたすきをつないでいく。生徒会としては初めての試みの行事であり、自分たちの企画・運営ということもあり、この企画を全校生徒が一緒になってやってくれるかと心配した面もあったが、当日は開会式・閉会式を含め全校生徒が1人もいいかげんな走りをする事もなく、生徒全員で盛り上がった行事となった。生徒の中からは「来年もやってみたい」という感想も出るなど充実したものとなった。

一つの取組を単年度で終わらせることなく、修正・改善を加えてさらに意識づけを行っていく。意識の高まりが教職員や生徒の達成感につながり、さらに新しい取組へと深化していく。今後もさらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いて行う予定である。



### 他校へのアドバイス『キーワード 教職員との連携と意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。生徒会担当の教職員や各委員会担当の教職員との連携や調整が生活への指導の徹底や取組の充実につながる。今後も教職員・生徒の目的意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。

校番	62	ホームルーム活動	生徒会活動	1	学校行事	別紙様式
----	----	----------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安西高等学校	校長	澄川 利之	生徒指導主事	鯉迫 勝也
-----	--------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『生徒会主導の全校集会』**

**取組のねらい『キーワード 社会につながる対話へのしかけ』**

受動から能動へ。主体的な生徒間の対話を通じて、生徒自らが学校環境を変化、変革させていくための活動を模索していく。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒中心の対話と主体的活動』**

- 生徒会執行部主体の全校集会の実施。(出席教員は特活 2 名, 主幹教諭のみ)
  - ・生徒からの意見集約, 意見交換→現時点の学校をどのように考えているか。今後, どのように変えていきたいか。
- 着ベル運動取り組みに関しての提案, 実施 ※授業担当教員は着席の指示をしない
  - ・各クラスで始業時における着席状況のカウント→生徒会集計→クラスへ提示
  - ・全校集会 1                      ・全校集会 2                      ・着ベル集計 1                      ・着ベル集計 2



**取組の課題・創意工夫『キーワード；より発展的にするための工夫』**

- 執行部への評価を上げていく→信頼される生徒会
- 生徒たちの意見が多岐にわたりすぎて焦点がぼやけた。
  - 次回より, 集会のテーマを具体的にした形での実施
- クラスにより集計のばらつき→集計の徹底
- 結果の周知徹底→結果をどのようにつなげていくか

**取組の成果(効果)『キーワード；主体的態度の育成』**

- ◇教員側が想定した以上に積極的な意見が生徒達から出た。
- ◇発言に対する反対意見等もあり議論の場となっていた。
- ◇教室で「座ろうで!」という自発的な声上がるなどの効果が見れた。(クラス差大きい)

**今後の展開『キーワード；更なる高みを目指して』**

- ①学期に 1 回の集会の実施
- ②挨拶運動, 清掃活動, 自主的な校則順守への発展
  - ※最終目標：学校を変革することにより必要なくなる校則の改変

**他校へのアドバイス『キーワード；我慢!』**

- ・主体的取組への構築をするとき, 生徒各自に学校生活への目標設定をさせることは必要不可欠であるが, 1 年次 2 年次 3 年次と丁寧に確認する必要がある。
- ・目に見える取組結果を期待したいが, 2 年 3 年という長いスパンで取り組みを考えていく必要がある。